

撫烟西炭坑細則ニ關スル第十八回會議録

(八月十九日全委員出席)

厘金問題續キ

彼曰ク 税金問題ニ關スル貴説三千噸限界案(昨日) 領事安ホシシテ全數以下一兩、全數以上金一圓)ハ貴總裁 へ電報セラレタルヤ

我曰ク 先ツ貴方ニ於テ貴總督ト御協議ノ結果貴 案(平噸ヲ限界トシ厘金報効ヲ奉天票五萬元トスルコト)ニ 同意ヲ與ヘラズ弊安ホシアザレハ決定セザル場合ニ於テ始 メテ總裁ヲ動かカス苦ノモノナリシナリ

彼曰ク 二日附位ニテ總裁ノ御承認ヲ得ラル、答ニアザ  
四十三卷十二月二十日記録一部受  
南滿洲鐵道株式會社  
リンヤ

我曰ク 故ニ今日貴總督ノ意見ヲ拜羨セル上貴案ノ 成立絶對不可能ナラムニハ總裁ニ伺フベシ

彼曰ク 昨日閉會後直ニ總督ニ會見シ具サニ二案 ヲ説明シ同意ヲ請ヒタルモ總督ハ二案何レモ意ニ滿 スズトノコトナリシ

我曰ク 二案トモ總督ノ同意ヲ得ル能ハサルモノナレバ 總裁ノ承認ヲ得ルモ無益ナルニアラスヤ

彼曰ク 我等ハ總領事一個ノ意見ヨリナレル三千噸限 界案ガ結局總裁ノ承認ヲ得ルモノナラヤ否ヲ羨知 シ置キタキナリ是非御聞合セアリク

要復寫

我曰ク 貴總督ノ同意ヲ得ラル、見込アルニ於テハ聞會  
甲斐モアルベシ 貴總督ニ於テ不同意トナラバ聞會スモ無  
益ナラズヤ

彼曰ク 總督ハ意ニ滿タズトノコトナリシモ 貴總裁ノ御意  
向果シテ如何ナルベキヤハ我等委員トシテ是非兼知シ置  
キタル

我曰ク 電報ニテ聞合セバ本社ニ於テハ重役會議ヲ開キ  
數字其他、依リ充分詮議ノ結果指令ヲ與フベキナリ故  
ニ成立ノ望アルニ於テハ無理ニ總裁ノ要請モスベキナレドモ  
貴説ノ如ク 總督ニ於テ不同意ナラムニハ此際電報ヲ以テ  
本社ヲ賤ス必要ナカラムト思フ且ツ總裁ニ於テモ必ス不  
足ナルベキハ尙ハズレテ明ナルナリ

南滿洲鐵道株式會社

彼曰ク トニカクニ案ニ對スル 貴總裁ノ御意見ヲ承知  
シタル上更ニ必要アラバ 總督ニ要請スルコト、シタル尚ホ 總督  
ノ意向ハ限畧説ニ於テ三千噸ト四千噸ノ中間ナルベシ  
應諾セラルコト、信ズ

我曰ク 貴總督ニ於テハニ案トモ意ニ滿タズトノ由ナガ  
ニ案中比較的満足、近キハ何レノ案ナリシヤ

彼曰ク ニ案共ニ不満足ニテ 貴説三千噸限畧案ニ於  
テ三千噸ト四千噸ノ中間ニ於テ決定セヨトノコトナリシ

我曰ク 貴説四千噸限畧案ハ比較的満足、近カリシナ  
ルベシ

彼曰ク否、弊説四千噸限界案ハ當初ニ否定セラレ貴  
説三千噸限界案ニ於テ三千噸ト四千噸ノ中間ヲ採ルニ  
トノコトナリナリ

我曰ク果シテ成立ノ見込ニ總裁ハ聞合ス價値ニルヤ  
否、無理ニ總裁ニ要請シタル上萬一不成立ノ如キニトアラハ不  
面目ノ極ナリ

彼曰ク先モ角貴總裁ノ意ハ貴委員之ヲ我等ニ通シ  
總督ノ意向ハ我等之ヲ貴委員ニ通スベキナリ弊總督  
ノ意ニテハ決定シ能ハナリ而シテ貴總裁及弊總  
督ノ意思シテ大差ナキハ我等委員ニ於テ決定スベキナリ  
我曰ク然ラハ成立スベキモノトシテ總裁ニ要請シタル



南滿洲鐵道株式會社

ベキヤ

彼曰ク總督ノ意ハ限界案ニ於テ三千噸ト四千噸ノ中  
間説ニ於テ決定セヨトノコトナリ

我曰ク(領事)弊説ハ昨日來屢論述セカ如ク他ニ絶對  
協定案無キニ於テ既ニ阪口委員ノ不同意ナルニモ係ス  
無理ニ總裁ニ要請スベシトノ所謂「提案」案ナレバ三千噸  
ノ限界ハ仮令五千噸、百噸ヲ超スルモ不可ナリ夫ニテ差  
支ナクハ聞合スベシ

彼曰ク然リ、總領事一個ノ意見ハ此ノ如クナルモ貴總  
裁ノ意向果シテ如何ナルヤ、總督ヲ結局同意ヲ與ヘラル、  
ヤ否ハ言明シ難キモ双方主席者ノ意見ハ我等ニ於テ

兼知シ置ク必要アルベキナリ

我曰ク(領事)弊案ハ既日委員ノ不同意ヲモ顧ミズ滿鉄ニ  
勸告要請スベキ性質ノモノナルコトハ昨日論説ノ通りナリ然  
ルニ貴總督ニ於テ同意セシガルモノトモバ何ニ依リテ勸告  
要請スルコトヲ得ルヤ、サレバ弊案ニシテ貴總督同意ノ  
見込アラハ何時ニテモ聞合スベシ

彼曰ク 貴案三千噸限界ノ中間即チ  
三千五百噸トシテ貴總裁ハ電報セラレタレ

我曰ク 断シテ不可ナリ、三千噸限界説ニ於テ成立ノ見  
込ナラハ聞合スベシ

彼曰ク 三千噸、四千噸ノ中間ニ限界トシテ願ヒタレ



南滿洲鐵道株式會社

我曰ク 此ノ如キハ即チ弊案ノ性質ヲ否定セラレタルナ  
リ撤去スベシ

彼曰ク 結局御聞合セ下サルヤ否

我曰ク 弊案ニシテ成立ノ見込アラハ聞合スベシ

彼曰ク 限界ヲ三千五百噸トセラレバ直ニ同意成立スベシ

我曰ク 不可ナリ、三千噸限界ニ於テ同意セシハ聞合ス  
ベシ

彼曰ク 熟々本問題ノ経過ヲ考フルニ弊方ハ素ト限  
界説ヲ持セザリシモノナリ、サルヲ五千噸トシ更ニ四千  
噸ニ譲リ尚ホ三千五百噸ノ讓歩ヲ敢テセムトスルナリ  
然ルニ貴方ハ當初ヨリ三千噸ヲ固持シ寸毫ノ讓





歩モセラレガレニアラズヤ  
我曰ク 然ルリ、我等ハ一面多額ノ雇拘報効支出ヲ敢テ  
セズルナリ

彼曰ク トモカク御前合ヲ請ヒタル上再議スルコトノスズレ  
我曰ク 幸ニ總裁ノ承認ヲ得バ直ニ三千噸限界案ヲ  
以テ同意決定セラレタシ

彼曰ク 貴總裁ノ意ニシテ断シテ動カス可カラズトセバ更  
ニ總督ニ迫リ三千噸限界案ニ於テ成立ヲ期スズレハモ  
言明ニ出来ガレモ、



南滿洲鐵道株式會社

鑛區問題 (撫順)

彼曰ク 撫順炭坑鑛區問題ニ關スル双方ノ主張ハ十  
分ニ論議シタルモ阪口委員ノ所謂一步寸モ譲ル  
ノ理由ハ不當ニシテ御提出ノ露國側ノ証據書類ハ一  
モ清國政府ノ承認ヲ經タルモノニアラザレハ我等ノ承認  
出来サルハ勿論、假ニ我等同意スルトセルモ清國政府ノ  
承認セザル書類ヲ何カ故ニ我等委員、於テ同意セル  
ヤノ上司ノ詰問ニ會セバ我等ハ立場ヲ失フベキナリ  
少シハ我等ノ穩當ニ主張スルニ考慮セシテ自説ヲ固持  
セラレガレニ於テハ本問題ノ解決ハシカシ困難トスル信ズ  
我曰ク 假ニ貴説ニ一步ヲ譲リ露國側ノ証據ハ之ヲ

無効トスルモ撫順炭坑鑛區圖ハモトヨリ本會議ノ如キヲ  
豫想シ過大ニ作製シタルモノニアラス明治四十五年即チ光緒  
三十三年十二月撫順炭坑鑛界標設立ニ當リ該境界内  
ニ於テハ内外人ノ石炭採掘ヲ許サル旨時ノ交渉使陶  
太均氏ニ申出デ其承認ヲ經タルモノ即チ今ノ鑛區圖ナリ  
貴説露路國側ノ證據ニ依リ上司ヘノ報告不備トセシ  
ニ於テハ前任者ガ承認セル本鑛區圖ニ依リ説明報告  
スルニ於テ何等異議ナカルベキナリ

彼曰ク前任陶太均氏ノ承認セラレタルコトハ貴委員ノ  
人格ニ對シ信用スベキモ如何セム何等ノ証憑ナシ且ツ  
夫等ニ關スル貴國領事館其他ヨリノ公文又ハ引継書



南滿洲鐵道株式會社

類一モ無クバ之ヲ理由トシテ同意スルコト能ハズ即チ貴説  
ハ專ラ露路國側ノ證據ニ依ラザルベカラズ

然ルニ前説ノ如ク露路國側証憑ニ一モ有効ノモノナシ結局  
露路國經營ノ實際際ト増城將軍ノ所謂上奏文ニ依リ  
撫順界ト決スル外ナキナリ

我曰ク貴説ハ依然トシテ前議ノ及覆ナリサレバ當時露  
國側証憑及前任陶太均氏ノ承認セラレタル鑛區圖ニ  
就テ疑問アラハ夫々貴方ニ於テ事實ヲ調査セシメキ  
コトヲ以テセリ然ルニ今日モ夫等ニ對スル何等手段ヲ  
採ラズレテ理非理ヲ問ハズ弊説シ不可ナリトセラルハ  
解スル能ハサルナリ

彼曰ク我等ノ調査ヤリシ理由ハ大体ニ於テ貴説ハ調査  
スル丈ケノ價值ヲ有セザリシニ依ル即チ

一、陶木均氏ハ既ニ承認セルトスルモ今氏ハ現任者ニアラザレバ  
個人トシテ承認セルトセザルトハ本問題解決ニ何等  
關係ナキナリ次

一、貴説露國側証據ハ撫順炭坑ニ關係セル露國人が  
単独ニ其本國ニ報告セルモノニシテ清國人ト合同契約  
セル又ハ清國政府ノ承認ヲ得タルモノニアラザレハ各株  
商合スルべき價值ナキト認メタルナリ

我曰ク 要スルニ我等委員ヲ信用セザルトノコトナルヤ然ラ  
ザレバニ應商合スルべきヲ以テ正當トスベキナリ

南滿洲鐵道株式會社

次ニ陶氏が現任者ニアラザレタリ以テ何等關係ナレト云ハルニ  
於テハ現ニ進行中ノ本會議モ貴交渉使ノ轉任其他ノ  
事故ト共ニ無効トナレバキヤ

露國側証據ニ就テハ屢々及西復シタレバ再説ノ要ナカル  
ベシ

唯當初ヨリ絶對ニ承認セバトノ意ナラハミハ全然協定  
ノ餘地ナキナリ

彼曰ク 貴説ノ前任陶氏ノ籍區面ヲ提出セラシタルハ  
何年頃ナルヤ

我曰ク 明治四十年十二月十三日ナリ  
彼曰ク 光緒三十三年ナラム

我曰ク然リ

彼曰ク 當時ノ書類トシテ光緒三十四年(明治四十二年) 總領事ヨリ他日撫順炭坑鑛區協定セラルマデ弊國打 營囁子ノ採掘ヲ停止シ今時ニ貴國ノ新地ニ於テ採掘 モ亦停止スベシ云々ノ文字アリ

備考此時清國委員ハ公文ヲ示ス

若シ貴説ノ如ク光緒三十三年ニ於テ前任陶氏ガ承認ヲ 與ヘタルモノトセバ本公文ハ貴説ト矛盾セルニアラスヤ

我曰ク 貴説ニ就テハ既ニ論述セルガ如ク其後貴國人 ミシテ鑛區内ニ於テ採掘セルモノアル都度炭坑ヨリ當 局ニ抗議シ近ク古城子ニ於ケルモノ、如キハ現ニ抗議中



南滿洲鐵道株式會社

ニアル位ニシテ未定ノ故ヲ以テ一モ放任セルガ如キコトナキナリ 即チ我等ノ所謂鑛區ハ當時ヨリ既ニ一定不動ノモノタルナリ 次ニ陶大均氏ノ言質ニ就テハ貴説ノ如ク公文等ハ無キモ 炭坑ノ記録ニ明ニ存セリ今總領事及交渉使列席 ノ際少シク氣ノ毒ノ感アルモ胸襟ヲ開キ實情ヲ一言セ ヲミ當時撫順炭坑ニハ清國トノ間ニ煉瓦製造、砂利採 取等ニ關スル數多ノ煩累ナル交渉条件構ハレリ然ルニ 當時ノ事情ハ此等ノ小案件ヲ一々領事館ヲ經テ交 渉解決スルニハ非常ノ煩累ト日子ヲ要スルヲ以テ直接 協商ニタレトノ陶氏ノ意見アリレリ以テ何事モ直接 往復交渉セリサレバ鑛業用地トシテ收用セル百八十五坪

ノ土地スラ直接買収セル次第シテ一切ノ用務モ亦多クハ直接書信其他ニ依レリ、サレバ公文ニキキハ口當然ニシテ承認セラレタル事實ハ為メ消滅セザルベキナリ其證據ニハ炭坑ガ鑛泉標ヲ樹テタルモ當時何等ノ抗議ナカリシヲ見テ知ルベシ

又露路國側ノ證據ニ就テハ増樞將軍ヲモ株主トスル撫順煤礦公司ヨリ露路國極東森林會社ハ賣渡ストキ、書類ニ石炭分布ノ全區域ニ及ブトアリサレバ露路國單獨ノ文書ニアラズシテ貴國將軍増樞ノ承認セラレタル証憑ナラスヤ之ニ及シ貴國ノ鑛區分割論ニハ一モ確タル證據ナキアラズヤ



南滿洲鐵道株式會社

彼曰ク 前任陶氏ノ承認ニ就テハ貴委員ノ疑フミアラサルモ証憑ニ乏シキノミナラス前議ノ公文ニ依ルモ承認セルカ如キ意味一モナシ

又極東森林會社ト撫順公司トノ關係ニ就テハ公約條が直接極東森林會社ハ賣渡シタルモノ、如ク論セラル、モ当初公約ハ紀尾台ニ賣渡シタルモノヲ紀ヨリ更ニ森林會社ハ賣渡セルニテ當時翁ハ紀尾台ノ此處置ヲ以テ不當トシ訴訟ヲ提議セル位ナリ而シテ貴説石炭分布全區ニ及ブ云々ノ文字ハ紀ノ森林會社ハ賣渡セルモノ、中シテ前ト紀ノ向ニ打ケル契約ハ一モ此ノ如キ字義ヲ見ザルナリ

我曰ク 將軍増樞ガ株主タルコトヲ認メラル、ヤ

彼曰ク 認メラシム

我曰ク 公函をトハ誰ナルヤ

彼曰ク 不明ナリ

我曰ク 貴國殊ニ奉天地方ノ人ナリト不明ナリト答ナシ

彼曰ク 多数ノ株主ナレバ不明ナリ

我曰ク 貴國ハ撫順炭坑鑛區ノ一部ヲ分割シ如何ニ処理セラレトスルヤ

彼曰ク 實ノ処リ云ハバ只今ニテハ分割後ニ對スル何等ノ意見ナキナリ

内外國人何レソレテ株權継管セシムルモ 鑛道ハ貴國ノ手ニリ資本ノ到底貴會社ノ大ニ及バズガレバ價值トシテハ極メホ



南滿洲鐵道株式會社

ナモノナリ

我曰ク 分割論ニ於ケル唯一ノ根據ハ増祺將軍ノ上奏文ニ

アルモ日本政府ハ該上奏文ニ依リ撫順炭坑ヲ獲タルモノ

アラザレバ一毛ノ價值ナレ他ニ考慮ノ價值アル理由アラハトモ

アレ然ラザレハ断シテ不可ナリ

彼曰ク 昨年ノ滿洲協約ニモ撫順炭坑トアリ撫順界以外

ニ及バザルナリ

我曰ク 然ラバ烟台炭坑ニ移ルベシ

彼曰ク 可ナリ、只一言シ度キハ曩ニ貴説ノ如ク 遼道共

ニホースマウス條約ニ依リ獲ラレタル撫順炭坑ハ遼道ニ

打テハ東清鐵道會社ヨリ引継カレタル書類アルモ撫順炭

坑に至リテハ書類ナクシテ漠然廣大ナル地域ヲ鑛區トセラ  
ルハ到底不可ナル也貴總裁ハ言上セラレタキコトナリ  
我曰ク然レバ曩ニ否認セラレタル露國ノ証憑ニテ承認ス  
ルコトナリタルニヤ

彼曰ク然リ、合同契約又ハ清國政府ノ承認セルモノ例令ハ  
東清會社ヨリ引継書類ノ如キハ之ヲ認ム  
我曰ク、鑛道ト異リ土地ハ未買収ノモノナレバ此ノ如キ書  
類ハナキナリ

彼曰ク然ラバ証憑ナキナリ  
我曰ク、戦争ガ尚ホ一ケ年モ遼カリシナレバハ必ズ貴説ニ  
應ズルコトヲ得ル所ノ土地買収書類アリタルナリ



南滿洲鐵道株式會社

彼曰ク、鑛道ニ於ケル東清會社ヨリ引継書類ノ如キモノ  
ニアラザレバ承認スルコト能ハス

我曰ク、貴説分割論ニ就テ的確ナル証據理由アルニ於テ  
何時ニテモ總裁ヘ伺フベシバ十分御調査アレ

彼曰ク、既述ノ如ク上奏文及光緒三十三年(明治四十二年)  
ノ公文ハ有効ナル証憑ニアラスヤ

我曰ク、貴説ニ對スル弁駁ハ數度之ヲ及覆セリ今  
至リテ敢テ論セザルナリ速ニ烟台及坑ニ移リタル  
彼曰ク、曩ニ上奏文ニ對スル弁駁アリシ故三十三年  
(光緒)ノ公文ヲ提出セルナリ

我曰ク、無益ノ論議ニ之ヲ中止シ速ニ烟台鑛區ヲ移

ルベシ

彼曰ク我等撫順鑛區決定ノ上烟台に移リタキ希望ヲモク  
ハ貴意ニ從フコトニシテ尚ホ一言レ度キハ鑛區問題ハ第一  
各ノ至テ各ノ會議、於ケルガ如ク彼是交換融通スルコトナク  
烟台、撫順何レモ各箇、論議決定スベシ

我曰ク然リ、当方モ亦交換問題、利用シテ一歩モ譲カ  
如キコトハセザルベシ維令總領事、於テ仲裁談ヲ提出  
セラル、モ我ハ断シテ應セザルナリ

鑛區問題續キ (烟台)

我曰ク 烟台炭坑鑛區、就テハ双方共ニ主張ハ一通リ

南滿洲鐵道株式會社



論議シ且ツ貴說ノ本問題ハ極メテ明白ナリト云ハレシ辭  
說ヲ海峽認ノ上ナムト信ズ別ニ議無クシバ真ニ決定トシ  
彼曰ク本問題ニ關スル兩者ノ主張ハ大体ニ於テ大差ナシ  
即チ龍票直八張ノ内五張ハ明ニ露國、賣渡セルモノ  
シテ他ノ三張中鑛子峯、王家票區ハ一ヶ年五百三十兩  
ヲ以テ露國、租借ノ約成レルハ事實然モ契約ノ租借  
料ハ一度モ受領セシコトナレ他ノ王家票即チ王家票區  
ニ於ケルモノハ吾姓ガ一千五百兩ヲ以テ契約シタルモ亦、取  
消シタリ、趙家票區ニ就テハ全然露國、賣渡スル租  
出セシコトナレ、尾明山區ハ貴國全然没交渉ナリ  
我曰ク 露國買収ノ五龍票、就テハ再言及セザルコト



他ノ三票及尾明山區ニ就テ順次一區ツク議スルコトニスベシ  
先ヅ北方華子岑王家票區ヨリ議センニ貴説ハ一々年五百ニ  
十面ヲ以テ租出シタルモ租借料ハ一度モ受領セズト謂ハル  
ヤ

彼曰ク 然リ受領セズ

我曰ク 貴説ハ虚偽ナリ我等東清鐵道會社ヨリ引継  
タル受領証ヲ有ス

彼曰ク 有リヤ

我曰ク 有リ

彼曰ク 何年何月頃ノモノニヤ

我曰ク 原文ハ露文ニシテ一九〇三年即チ明治三十六年



南滿洲鐵道株式會社

月三十一日付五百四十四面、内二十四面ハ龍票ノ課銀ニシテ音  
二千面ハ租借料ナリ之ヲ弗ニ換算シ七百五十九面五十五仙  
トアリ

又曰ク 本區ハ前議ニ於テ露國ノ関繋セル堅坑ガ弊  
説ノ如ク果シテ本票區中ニ所在セバ同意ニ異議ナレトノ  
コトナリレガ只今ノ貴説ニ依レバ異議アルニヤ

彼曰ク 貴説御尤ナリ其後調査ノ結果本區ハ租借ニシテ  
賣渡シニアラス他ノ五票區ノ一万余面ヲ以テ權利ヲ賣  
渡シタルモノト大ニ性質ヲ異ニシ且ツ當方ノ調査ニ依リ租  
借料スラ受領シ居ラハルトノコトナリレ故更ニ提議セル次  
第ナリ

我曰ク 然らば前議ノ美詔ヲ取消サルニヤ  
 彼曰ク 主張ノ理由アルヲ以テナリ  
 我曰ク 取消シニアラザレバ決定セルモノトシテ他ノ區ニ移ルベシ  
 彼曰ク 調査ノ結果賣渡シタル他ノ五票ト大ニ其性質ヲ  
 異ニスルニシテ租借料ヲ受領セザルノ事ハ所謂租借ノ  
 實質ナキモノニシテ寧ロ他ノ五票ト全様ニスベキモノナルコト  
 明ナリタルヲ以テ主張セルナリ  
 我曰ク 租借料受領ノ証アルニアラスヤ  
 彼曰ク 其後ハ支拂ハズ  
 我曰ク 一九〇三年(明治三十六年)一ヶ年分多支拂ヒ次ノ支  
 拂期ニ至ラズシテ戦役ノ為メ事業中止逃走ノ結果支  
 拂ハザルナリ故ニ票主王姓ヨリ謂ハシムレハ既ニ賣渡シタル  
 他ノ五票ト同一ニ取扱ハルニ就テハ多少ノ不平アラシカナド  
 モ日本ガ戦勝ノ結果東清鐵道會社ノ利益ニ併セラレタル  
 モノヲ獲得スルニ於テ他ノ五票ト何等異ナリナキナリ本  
 主張ニ就テハ從來屢々繰返シタル所ナレバ再議セズ  
 彼曰ク 然らば既ニ賣渡シタル他ノ五票ト如何ナル區別  
 アルニヤ  
 我曰ク 既ニ屢々論及セルガ如ク貴説ハ條約ノ源泉ヲ  
 了解セラレザルナリ  
 彼曰ク 條約ノ上ヨリハトモカク賣渡シト租借ニハ區  
 別ナキ能ハズ



南滿洲鐵道株式會社

我曰ク 此ノ如キハ撫順ニ於ケル貴説ノ王義克又ハ木林林  
會社ト同様ナルナリ

彼曰ク 然リ、木林林會社ハ露國ノモノナレバ我等ノ聞知ス  
ル所ニアラザルモ王義克ハ現ニ賠償ヲ申出テ居ルナリ

我曰ク 東清鐵道ノ利益ニ供セラレタルモノカ條約ノ効果ニ  
依リ日本ノ有ニ歸シ既ニ貴國モ承認セルモノナレバ何等議  
論ナキ筈ナリ

彼曰ク 何レニスルモ二万数千兩ヲ以テ賣渡シタル他ノ五票  
ト一ヶ年五百餘兩ヲ以テ租出セシ本區トハ今一視スルコト  
能ハス

我曰ク 事情ノ如何ハ我等ノ問フ所ニアラザルナリ若シ  
○ 南滿洲鐵道株式會社

票主王ミシテ不平アルトナラバ條約ニ依リ日本ノ獲タル  
權利ヲ無條件ニテ承認セラレタル貴國政府ニ賠償ノ要求  
ナベキナリ

彼曰ク トモカク賣渡シタルモノト租借セルモノトハ一様ニ扱  
フベカラザルナリ

我曰ク 露國が如何ニシテ烟台山灰坑ヲ獲タルヤノ原因ハ  
我等委員ノ論及スベキ範圍外ニシテ我等ハ烟台山灰坑が果  
シテ東清鐵道ノ利益ノ為ニ經營セラルルモノナルヤ否ヤヲ識  
ルコト足レリトス是レ即チ日本が烟台山灰坑ヲ獲ルヤ否ヤノ  
分岐ナリ而シテ烟台山灰坑讓與ハ張區及尾明山區ハ昔ニ東  
清鐵道ノ利益ニ供セラレタルモノニシテ條約ノ結果我等

ノ有ニ歸スベキハ明ナリ

彼曰ク 貴説尤モナリ我等ハ夫レヲ及駁セムトセズ、只夫レガ為メ  
金ヲ支出スル能ハズトノ議ハ不同意ナリ現ニ貴國ハ撫順炭坑  
ノ經營ニ伴フ土地家屋ノ買収ニ多額ノ支出ヲナシ居ラ  
ルハニアラスヤ

我曰ク 我等ノ論議セルハ鑛區ニシテ土地ニアラス烟台炭坑  
ニモ民地多シ他日炭坑經營ニ伴フ必要ナル土地ニシテ東清  
鐵道ニ於テ未買収又ハ支拂ヲ了セザルモノアラバ進テ支  
拂フベシ

彼曰ク 鑛區モ亦土地ナリ合様支拂フベキナリ

我曰ク 鑛區ト土地所有權トハ別個ノモノナリ地表ハ所



南滿洲鐵道株式會社

有權人民ニアレバ買収スルハ代價ヲ支拂フベク租借スレバ租  
借料ヲ拂フベキモ地下ノ鑛業權ハ然ラズ

彼曰ク 貴説ハ鑛業ニ關スル理論ナリトモカク本區ハ一  
ケ年五百三十兩ヲ以テ露國が租借セルモノナレバ貴國亦  
合様継承スベキナリ

我曰ク 地下鑛物ノ所有權が國家ニ屬スルハ各國其  
規ヲ一ニスルノミナラス貴國鑛業法亦此方針ニ依リ土地  
所有權トハ全然別個ノモノナリソノ國家ノ所有ニ屬  
スル鑛物ヲ條約ノ効果ニ依リ獲得シ貴國ノ承認セ  
ラレタルモノヲ別個ノ土地所有權ト混同論議セラルナリ  
錯誤ヲ生ズルナリ

彼曰ク我等ハ貴國ガ露國ヨリ得ラル権利ヲ露國經營ノ實際ニ依リ其ノ終継承セラレテ主張セリ

我曰クソハ北京ニ於テ西國全權ガ將ニ議スガリレ所ノモノニシテ既ニ貴國ハ東清鐵道ノ利益ニ傳セラルモノハ一切無條件ニ承認セラレタリ故ニ我等ハソノ主權ニ依リ論議セバ足ルナリ

彼曰ク弊國ハ露國經營ノ實際ニ依リタルモノヲ継承スルコトヲ承認セルナリ故ニ露國ガ如何ニ經營セシヤリ論議スルハ無益ニアラス否必要ナルコト信ズ

我曰ク争フマデモナクポーワウス條約及北京協約ヲ見バ明ナリ



南滿洲鐵道株式會社

彼曰ク清國ノ承認セルハ露國經營ノ範圍ニ依ルナリ我曰ク御主意明ナラス本區ハ讓與出來スト云ハルニヤ將タ露國トシテ租借料ヲ継承セヨトノ意ナルヤ

彼曰ク一度露國ノ經營シタルモノナレバ讓與出來スト云フコトアズ露國今様ノ租借料即チ五百三十兩ヲ継承セラレト云フナリ

我曰クソハ條約ヲ無視シタル論議ナリ日本ハポーワウス條約ニ依リ戰勝ノ結果權利ノ讓與ニ受ケタルモ義務ノ受継ハ一切セザルナリ

彼曰ク貴國ハ露國ニ對シテノ論議ナリ清國ノ承認範圍ハ露國經營ノ事實ニ依ル外ナキナリ鐵道ニ於

テモ撫順支線中土地代未拂ノモノハ貴國ニ於テ支拂ハレ  
タル例アルニアラスヤ

我曰ク 篤トポーワウス條約ヲ見ラレバ該條文ハ特  
權利ノ継承トアリ 戦勝ノ結果義務ヲ負フベキ理ナキコト  
明ナラスヤ去レバ東清鐵道會社が露清銀行等ニ對シ  
テ戦前負債ヲ有シ居リタリトスルモ我等ハ其義務ニ付  
テハ直モ継承セザリシヤ

彼曰ク 條約ハ清國ハ特ニ權利ハシヤ承認スルトノ字  
義ナシ、撫順支線地代支拂及王兼克ノ出資賠償ニ關  
スル貴公使ノ聲明ハ好適例ナラスヤ

我曰ク 王兼克ノコトカ權利義務ノ關係ニアラザル



南滿洲鐵道株式會社

既述ノ如シ、撫順支線地代ハ個人トシテ支拂ヒタルモノニシテ  
露國ノ義務ヲ負ヒタルニアラス

彼曰ク 撫順支線及王兼克ニ關スル書類ハ義務ニア  
ラザルコトヲ明記セルモノナレ

我曰ク 議論尚多カラムモ閉會スベシ

撫烟兩炭坑細則三開スル第十九回會議録

(八月二十日全委員出席)

厘金問題續キ

我曰ク昨日津約束ノ通り最後ノ二案中貴業ハ不幸  
貴監督ノ同意ヲ得ル能ハス止ムナク與業即チ一日出炭  
三千噸以下ノ場合ハ坑口原價ヲ銀一兩、日教以上ノ  
場合ハ全体ヲ金一円トシ厘指報効五万円ヲ支出スルナ  
ク貴委員モ同意シテ終昔ノ賛同ヲ得レハ是非承認  
セラレ度キ意味ニテ總裁ニ電報要請ノ結果此ノ如キハ不  
満足ノ極ナルモ終昔ノ同意アルニ於テハ事情止ムヲ得ヌ承認  
スレトシテハ故直ニ決定セラレタシ

四十二年十二月二十日記録一部受  
南滿洲鐵道株式會社

彼曰ク、高志持謝ス貴業ニツキ昨日モ終昔ニ伺ヒ頗  
ルモ満足ナルニシテ既ニ貴總裁ノ同意モアレハ  
更ニ終昔ニ要請シ明後日決定スベシ  
我曰ク、貴院ニ後ト特ニ電報要請シタル次第ナレハ萬  
々一ニモ面目ヲ保テハルカ如キコトナキチ切望ス  
彼曰ク、貴業了セリ必ス成立セシムベシ

釐金問題續キ

我曰ク、錫子峯車家票区ニ就テハ前回既ニ貴委員  
ノ承認ヲ得タルモノナレハ再議ノ要ナカレハ之ヲ茲見山王



家業区ニ進行シタリ

彼曰、煤子炭区ハ昨日ノ論議・於テ未ダ決定セシニアラ  
サレモ貴方ニ後ニ茨見山区ニ進行スルモ可ナリ

我曰、進行シタリ

彼曰、可ナリ、先ツ貴見ヲ拜承シタリ

我曰、茨見山王家業区ニ就テハ前回ノ貴説ニハ呂仁  
成トノ契約ハ締結直ニ取消サレタリトナリシモ其後柴  
方ノ調査セシ所ニ依ルモ前ニ主張セル如ク本区ハ露國人  
大頭呂仁成カ租借経営セシモノニシテ採掘セル所炭ハ之  
ヲ二道溝ニ搬出シ東清鐵道ニ供給セルノハ沿革ニ依リ  
明ニテ他家区同様東清鐵道ノ利益ニ供セラレタリモ

南滿洲鐵道株式會社

ナレハ是非同業決トセラレタリ

彼曰、石炭搬出ノ一ハ貴國軍隊ガ畑吉炭坑占領  
當時同地方ニ貯炭シテリタルモノヲ貴軍ガ搬出セル間  
違ナラスヤ

我曰、各、呂仁成採掘當時ノコトナリ

彼曰、貴説恐ラハ間違ナラハ露國ノ経営セル茨見山  
鑛道炭ノ方ナルハレ、本業区ニ於ケル呂仁成ノ契約ハ  
明クニ取消サレタルモノナリ

我曰、貴説ノ取消ナレタリトハ誰ノ申立ナルヤ

彼曰、業主王ノ申立ナリ

我曰、業主王ノ申立ハ我等委員ニ於テ一切信用スル



丁能ハス即チ要・錯子各區ニ於ケルモ当初露國ニ租出  
 上タルコトナシト云ヒ其租借ヲ奪取スルニ當リテハ正當ナ  
 ル受領セアルニモ係ラス租出シタルモ租借料ハ一切受領セ  
 スト謂ヘルヲ如ク專ラ貴官衙ヲ欺瞞セリ本區ニ關スル  
 申立亦合様ナラム  
 彼曰ク「一々ニノ申立ニ依リタルニアラス遼陽州衙の書  
 類ニモ本契約取消ノコト見アルナリ  
 我曰ク「貴説ノ取消トハ尾明山天利公司總弁何原知ノ  
 せんモノナラム曰氏ハ一面天利公司總弁トシテ鑛政調査  
 局委員ノ官職ヲ利用シ自家利益ノ為メ任意取消  
 シタルモノナラムト答ス

南滿洲鐵道株式會社

尚ホ樂説本區カ呂仁成ニ依リ租借經營セシタルモノナル  
 ハ當時田地ニ在リテ實情ヲ詳知セル生キタル証人淺田氏  
 ヲシテ詳述セシムルニ  
 (証人淺田) 明治三十七年八月我軍ハ烟台炭坑占領ト内  
 時ニ自今ハ農商務省(表面ハ大本營)ヨリ派遣セル烟台炭  
 坑調査隊ハ一員トシテ田地ニ至リ調査ノ結果本區ハ他  
 業区同様東清鐵道ノ利益ノ為メ露國人夫頭呂仁成ニ依  
 リ經營セラレタルコト明カナリシヲ以テ尾明山及本区内大峪  
 溝ト共ニ烟着炭坑支山(當時唐崎山ヲ本山ト呼ビリ)トシ  
 テ採掘經營シ殊ニ本區芳家屯ハ右ノ關係ヨリ最も重ク置キ  
 支山總局トシテ尾明山、大峪溝、西坑ヲ支配セリ然ルニ當時

呂仁成ナル者来リ本区ハモト自分ノ株堀経営セルモノナレ  
ハ自分ヲシテ株堀セシメラルルカ又ハ本坑関係者ノ一員トシテ加  
ヘラシ度ト旨申出デ同時ニ十数羽ノ難ト教養ノ卵子ヲ贈  
與セルモ我等ハ之ヲ拒絶シタリ而シテ其後彼ハ教養事  
務所ニ来リ四ノ申出デラナシタルモ其効ナカリニナリカレハ自  
分ハ何人ト教養ノ面暗テ互ニ相執ヲ懸知スレハ萬一証書  
ニ疑問ノ息モアラハ兩國委員會議ノ席上何人ト對質  
セシメラルルモ可ナリ何人ハ巧ニ露語ヲ話シ又日本語ヲ解ス  
尙ホ本区ハ東清鐵道ノ利益ノ為メニ經營セラレタルニ  
就テハ姓名ハ憚ルモ當時尾明山天利公司ノ經營ニ任セシ  
某貴國人ノ言明セシコトアリ

南滿洲鐵道株式會社

彼曰ク 何年ノコトナルヤ

我曰ク 明治三十七年十月ヨリ翌三十八年一二月頃マデハ  
間ナリ

彼曰ク 戦役當時呂仁成株堀經營出来得ル者ナキナリ  
我曰ク 戦役以前ヨリ株堀セルヲ調査ノ結果右ノ事實  
ニ依リ東清鐵道ノ利益ニ供セラレタルコト明ナリシヲ以テ  
日本ハ株堀經營セルナリ

彼曰ク 然ラハ呂仁成ト業主王トノ契約ハ何年頃出来  
ルモノナルヤ

我曰ク 記憶セザルモ戦役以前ナルコト言フ俟タス  
彼曰ク 契約ハ日本軍占領後ニシテ呂仁成締結ト共ニ北方

へ進ませり

我曰ク 貴説ノ契約ハ当時何等カニ利用ノ為メ作ラレタルモノニ非ヌヤト想像セラルル 株権経営セルコトハ明ナル事實ナリ

彼曰ク 契約ヲ締結セスレテ着手スヘキ理由ナシ

我曰ク 生キタル証據ハ動人可ラザル事實ナリ

彼曰ク 証言ノ採擷セラレタルコトハ事實ナラムモソハ呂仁成ニアラスレテ他ノ清人ニ依リ経営セラルタルモノナラムト信ス何

トナレハ呂仁成ノ契約以前ニ着手シ得ヘキ理由ナシレバセリ

我曰ク 貴説ノ契約ハ当時我軍ノ兵站司令官等ニ許願スル必要ヨリ作ラレ後又自家ノ利益ヨリ尾明天利公司等

并何原知ニ依リテ取消サレタルモノニ非ヌヤト想像セラル

南滿洲鐵道株式會社

事實ハトモカク呂仁成ハ日露兩國語ヲ巧ミセルヨリ露國

人夫頭トシテ東清鐵道ノ利益ノ為メ株権経営セルナリ

彼曰ク 株権ノ事實ハ之ヲ認めヘキモ呂仁成ノ経営ナラシコトヲ認

ムル能ハス他ノ清國人カ経営セルモノナラム後東清鐵

道ノ利益ニ供セラレタルニ非ルナリ

我曰ク 一步ヲ滾リ他清人ノ経営ヲタルモノトセルモ石炭

ヲ東清鐵道ニ供給セルノ事實ハ同一ノ解決ヲ與フヘキ

ニアラスヤ

彼曰ク ソハ不可ナリ東清鐵道ニ賣渡シタルノ故ヲ以テ直

ニ東清鐵道ノ利益ノ為メニ經營セラルトト断ス可ラズ

我曰ク トモカク生キタル証據アリ對質ヲ望ム位ナシハ貴方

ニ於テモ漢タル想像況ニ依ラスナシテ正確ナル事實  
ヲ調査セラルレタレ

次ニ老席炭趙家票区ニ進行シヨシ  
彼曰ク可ナリ然ラハ茨兒山王家票区ノコトハ天利公司ニ  
就キ調査モル上決スヘシ

次ニ老席炭趙家票区ニ就テハ露國ト全然没交渉ニシ  
テ鎮区ヨリ除外スルコトニ希冀議ナキヲ以テ信スルハ其家屯  
大峪溝ノ關係モク議シタリ

我曰ク本区ニ就キテハ前回述ハタル如ク露國カ買収又ハ  
租借セル証據ナキニ於テ貴説ト一致ス然レトモ四圍買収済  
ノ鎮区中ニ介在セル本区ハ必スヤ買収又ハ租借セルモンナラム

南滿洲鐵道株式會社

ト常識ヨリ判断シ得ヘラ日本側ヨリ見レハ等シク東清  
鐵道ノ利益ニ供セラルタルモノナレハ票主其人ニ先ノ善  
感アルモ承認セラルムコトヲ望ム

彼曰ク本区ハ明カニ露國カ買収又ハ租借セリナキノコトナ  
ラザル様掘經營セラルル事實亦ナシ單ニ買収済ノ他票区  
中ニ介在スルノ故ヲ以テ貴意ニ應スル能ハス

我曰ク然ラハ如何ニスノキヤ  
彼曰ク趙沛思所存ノ鎮区トシテ貴院鎮区中ヨリ  
除去スレハ可ナルナリ

我曰ク曰下採掘中ノ坑道ハ地下ニ於テ本区内ニ掘進  
シ居ルヤモ計ラレス

彼曰ク 現時ハ在ルコトナカラハト信ス 将来此ノ如キ場合  
 ニ際セハ更ニ協議スルコトハスヘシ  
 我曰ク 鑛区ヨリ除外スルコトハ 票主ノ為メニモ利益ニア  
 ラサルヘト信ス  
 又曰ク 現状ニ放棄セラルルニ於テハ 将来石炭ヲ採尽セル  
 空山トナルヤモ計ラレス  
 彼曰ク 東清鐵道ハ賣渡サリト位ナレハ 賣渡又ハ租  
 借ハ本人肯セサルヘト思フ  
 我曰ク 然ラハ除外スヘトノコトナルヤ  
 彼曰ク 然リ  
 我曰ク 本区ハ龍票ナシトノコトナルカ 龍票ナキニ於テハ 所有  
 主不明ナルニアラスヤ  
 彼曰ク 龍票有ラハ 既ニ露國ニ賣渡セルナリ  
 備考 此說ハ前說ノ「東清鐵道ハ賣渡サリト位  
 ナレハ賣渡又ハ租借ヲ肯セサルヘト思フ」ト矛盾セリ  
 我曰ク 露國ニ賣渡サリトハ 本区ハ票区中最小ノモノ  
 ナルニ係ラス 他票区ト同一價格ヲ要求シタル為メ 協定  
 出来サリレモノト思フ  
 彼曰ク トモカク本区ハ除外レ置キ 他日必要ニ応シ更ニ協  
 議スルコトトシテ 次ニ若家セノ方ニ移リタシ  
 我曰ク 強テ争フニ非ルモ 貴方ニテモ 鑛区ノ中央ニ介  
 在セル一小区ヲ有セラルルモ 其処理ニ困難ナラハト思フ殊



南滿洲鐵道株式會社

ニ本区ニ於ケル石炭ハ海承知ノ通り其上層ニ属スル部分ハ  
數百年ノ間ニ於テ殆ト採尽セラル今ハ僅ニ地表下深キ  
下層ノ一部残スノミニシテ小資本ノ到底稼行ニ耐ハサル  
ナリ票主趙本人ノ為メヲ考フルモ幾何カノ湊金有リ付ク方利  
益ニアラサルカ、然カモ尚ホ除外ヲ欲セラルハ、ハ敢テ争ハス  
彼曰ク、除外セラレムコトヲ希望ス  
續テ芦家屯ノ方ニ移リタシ

我曰ク、芦家屯トハ茨兒山王家票区ノ内ニアラスヤ烟台炭  
坑ニハ八票区ト尾明山区以外ニ鑛区ナキ筈ナリ

彼曰ク、然リ王家票内ナルモ大峪溝ニテ採掘セル鄭明貴  
等ト票主王トノ間ニ屢ニ区域ノ争アリ現ニ訴訟中ニ属ス



南滿洲鐵道株式會社

ノミナラス全地方ハ先年貴國兵詰司令官ヨリ共ヘラレタル許  
可証モアレハ鑛区ヨリ除外セラレタレ

我曰ク、龍票内ニ属スルモノナレハ論議ナキ筈ナリ貴説ノ許  
可証ハ尾明山同様地方ノ人民救恤ノ主旨ヨリ一時黙許セ  
ルナリ

彼曰ク、許可スタアルモ黙許トナシ當時一度許可セラレ  
タルモノナレハ除外セラレタシ

備考 此時許可証ヲ示ス

我曰ク、一度許可シタルモ取消タルナリ

彼曰ク、何時頃取消サレタルヤ

我曰ク、明治四十年ナリ

彼曰ク 取消ノ証ナシ  
 我曰ク 取消シタルカ故ニ現ニ探堀シ居ラザルナリ之レ何ヨ  
 リ証ナシナルニアラズヤ  
 又曰ク 取消後ニ尾明山ノ黙許ヲ除キテハ内外人ヲ同ハス一  
 切之ヲ許サザリトナリ  
 彼曰ク 貴国ノ取消ハ当時同地方ニ於テ探堀セル日本人ニ  
 対スルモノニシテ清國人ニ対スルモノニハアラザルヘシ  
 我曰ク 兵站司令兼官ノ許可ヲ認メラレハニ於テハ鑛物所  
 有権ノ日本ニ屬スルコトハ明ナラニアラズヤ  
 彼曰ク 貴方ハ所有権ナキト認メラル、ヤ  
 我曰ク 所有権アリハコソ許可セルナリ  
 南滿洲鐵道株式會社



南滿洲鐵道株式會社

彼曰ク 果シテ有リヤ

我曰ク 無論有スルナリ

彼曰ク 然ラハ許可ニ依リ其権ヲ放棄セラレタルナリ

我曰ク 許可スヘキ権カ日本ニアリシコトヲ認メラレハヤ

彼曰ク 権利ナシニテ許可スヘキ筈ナシ

我曰ク 然ラハ日本ハ所有権ハ益々確定トナレルナリ

彼曰ク 貴国ハ日本人ニ対シテ云フヘキニシテ我等ニ対シテハ

権利ノ放棄ナリ

我曰ク 鑛物所有ノ権ハ國家ニ屬シタル公権ニシテ探堀ノ

許可ハ私権ヲ假定ニテ許スナリ貴国ハ常ニ公權ト私

権ヲ混同セラル、ヨリ此ノ如キ間違ヲ生スルナリ

彼曰ク、公権タルト私権タルト同ハス貴國ノ獲ラレタル權  
利ハ東清鐵道ヨリ移轉セルモノニシテ本区ハ貴國ガ其  
權利ヲ清國人ニ許可セウレタルヨリ採掘ノ權ハ清國  
人ニアルヘキナリ

我曰ク、貴況ノ所謂許可ハ明治四十年ニ取消サレタルナ  
リ少シク確實ナル調査研究ヲ願ヒタシ

彼曰ク、取消ハ貴國人ニ對セルモノナラム與方ニハ取消ニ關  
スル公文ナシ

我曰ク、現ニ採掘ニ居ラサルハ事實ノ証拠ナリ  
又曰ク、取消ハ必ス公文ニ依ラサルヘムラストソコナレバ頭ニ  
依ルモ可ナルナリ



南滿洲鐵道株式會社

彼曰ク、採掘ニ居ラサルハ票主王ト鄭明茂等トノ間ニ区  
域ニ關スル爭議ノ為メ中止セルナリ取消サレタルカ故ニア  
ラス

我曰ク、當時ノ事實ヲ十分調査考究セウレタシ

彼曰ク、採掘權清國人ニ屬スルモノナレハ更ニ調査ノ必要  
ナシト思フ

我曰ク、貴況ハ根底ヲ定メサル未論ナリ即提出ノ許可  
証ニ依リ許可スヘキ權ノ日本ニアルコトハ認メ居ラルヤ

彼曰ク、ソハ當時ノ貴國兵站司令官ニ問合サルニシ  
我曰ク、然レトモ本許可証ニ依リ與況ヲ駁セウルハヨリ  
考フレハ貴國ハ日本ノ所有權ヲ認メラレタルナリ蓋シ他人



所有ノモノヲ無断ニ許可スルキ理ナキナリ

彼曰ク 貴表ハ了解ニ苦ム 貴國兵站司令官ノ給發セル許可証ヲ與方ハ有スルナリ即チ貴國ハ權利ヲ放棄セラレタルナリ

我曰ク ツハ未論ナリ我等ノ間カムト決スル所ハ許可ノ行為ヲ認メラルルヤ否ト云フナリ

彼曰ク 貴國兵站司令官ニ問合セラルルニ我等ノ知ル所ニアラサルナリ

我曰ク 所有權ヲ有シタルヨリ始メテ許可シタルナリ

彼曰ク 許可シタル後ノ權利ハ何人ニ屬スルヤ

我曰ク 許可ハ所有權ヲ喪フルノ義ニ非ラス 後令ハ自合ハ此



南滿洲鐵道株式會社

衣服ヲ着用スルコトヲ賣下ニ許可スト云ハルル如キニテ與フルニ非ルナリ

彼曰ク 家屋ヲ某ニ賣リタリトセハ其所有權ハ某ニ移転スルキナリ許可ハ即チ權ヲ喪ハタルナリ

我曰ク 採掘ヲ許可ストアリ即チ所有ノ權利ヲ許可スルコトアラステ採掘ノ行為ヲ許セルナリ例ハ衣服着用ノ行為ヲ許可スルカ如シ

彼曰ク 然ラハ許可セラレタル權ハ有効ナリヤ否

我曰ク 取消ナケレハ其行為ハ有効ナリ

又曰ク 貴方カ本許可証ヲ以テ論議セラルルハ益ニ弊況ノ確實ヲ認メラルルナリ



彼曰ク一度許可せしめんハ弊方ノ同意ナラハ其消  
ス可ラス

我曰クトモカク烟台炭坑ノ採掘權ガ日本ニ移轉セル  
コトハ承認セラルルヤ

彼曰ク移轉セルコトハ承認ス

我曰ク其家此ニ其範圍内ナリヤ

彼曰ク兵站司令官ノ許可後ハ其範圍外ナリ

我曰ク其家此ニ其範圍内ナリトシテハ承認得ハ可ナリ

彼曰ク烟台炭坑採掘權ノ移轉ハ承認セシメ其家  
也一區ノ内ニ於テ之ヲ認ム

我曰ク然ラハ再議ノ要ナリ(烟台炭坑採掘權ノ移轉)

南滿洲鐵道株式會社

彼曰ク承認ノ區域ノ定ムル必要アリナリ

我曰ク是明山区ノ轄ノ内ニ實見ナキヤ

彼曰ク是明山区ノ採掘章程ハ承認セラルルヤ

我曰ク如何トモカクヤ

彼曰ク前回は兎ニ供セシムルナリ

我曰ク前回は兎ニ供セシムルナリ

我曰ク有シテハ承認セラルルヤ

彼曰ク然ラハ採掘權ヲシテ

我曰クトモカク前回は兎ニ供セシムルナリ(西清ノ公文)

彼曰ク是清國ノ在リ

我曰、最近ハ公刊古籍・使ヒトナシ

我曰、ア、ア、誤ラレニヤ

我曰、先ツ拜見ト云フニ、ホトト、或ハ期間ハ東清  
鉄道ノ利益ハ高ク採掘ト云フニ、確實ナリ

我曰、取清ハホトト、條約締結以前トハ權利ハ移  
轉トナシ、ナリ

我曰、ホトト、條約締結後、東清鐵道ハ經營ニシ  
鐵道、採掘ト云フニ、何等賠償、義務ナリ  
條約ニシテ、是ハ北東鐵道ハ第六條、無條件ニ一切  
ノ承諾トナシ、條約締結前後、然レハ何等ノ例外ナ  
シ故、一旦取清ト云フニ、是ハ又ナリ

南滿洲鐵道株式會社

我曰、然レ、然レ、條約締結前、今ハ是トナ  
リ

我曰、一俸責、取清ト云フニ、何年ナリ

我曰、先德平九年一月ナリ

我曰、本國駐在、然レ、條約締結後、何年ナリ

我曰、一、聲明、今ハ、北東鐵道在公使ト云フ

我曰、換聲明、云々、然レ、是ト云フ

我曰、當時何等批准ナリ、見レ、承認ナリ

我曰、

我曰、四卷、云々、業ニシ











2

取消サレタリト云ヒ更ニ其取消ハ秘密ナリト云フニ至リ  
ハ曖昧模糊トシテ捕提スル所ナキナリ

一、老古峯区ニ就テハ協商は定シテ思フ  
彼曰ク貴説ハ根本義ノ大ニ異ニシ今日我等ノ會議ニハ  
委員トシテ区域協定ハ必要アリ以テナリ若シ貴説如  
ク條約及協約ニ於テ一切廢止スル決定スルニ於テハ我  
等ハ毎用リモシムベキナリ

我曰ク貴説ノ通リ廢止スル協定スルナリカバコト著信  
論議ヲ盡シ事實ニ依リ決定スルハスルナリ

彼曰ク貴説ノ如クハ定業多ク努力ヲ費シ双方共調  
査考究ノ必要ヲアルニシテハ滿洲協約ノ所謂協定



南滿洲鐵道株式會社

スレトハ字義ニ其意ヲ起メナリ

我曰クハカク當方ニ主張スル破レテ更ニ有力ナル協  
ハナリサレカ

彼曰ク以上ノ點ハ更ニ必要ヲ認メサレナリ即チ相  
合ハルニ執リ

一、老古峯区ハ除外スルコト

一、蟬子峯区ハ露國租借ノ繼承者トシテ一トテ年五

百二十兩

一、波兒山区ハ天利公司ニ調査スル上決定スルコト

一、甘肅峽区ハ日清權利放棄ト共ニ清國ノ有ラレ

ト



一尾明山区、更言及ノ必要ナク貴國トモ没交渉ナリ  
次、撫順炭坑ハ

貴國ハポーツマス條約ニ依リ露國ヨリ獲ルシ、露國ハ  
清國人トシ契約ニ依リ之ヲ得、清國人ハ増祺將軍  
ノ許可ニ依リ將軍ノ許可ハ亦上奏案ニ依リナリ  
然ラハ我等ノ舉動トモ上奏文ハ撫順炭坑鑛區  
改定ニ係ル事ナリ有カナルモノナリ

我曰、貴説ハ都テ前議ノ及後復ニヤラザルナリ

又曰、汝見山モ同じニ終ニ實際ニ調査ノ佛考ナリヤ

彼曰、可ナリ調査スベシ

我曰、然ラハ調査ノ上ニテハ鑛區ハ決定スル能ハザルヤ



南滿洲鐵道株式會社

彼曰、專説ニ依同意スルハ決定スルニ至ラズヤ

我曰、不同意ナリ、調査ノ期日位ヲ異ニスルヤ

彼曰、二三ヨリバ可ナリ

我曰、調査スルニハ會議ハ延期スベキヤ

彼曰、調査前トモモ、汝見山トモ同じニ、除キ決定スル

ヲ得ハレ

我曰、只今ニテノ經過ニ考テハ協定頗ル困難ナル事如

シ他ニ融通ノ便法ニ考テ考慮スルニハトモモカク然ラザルバ

會議ノ続行スルニ効カカズト思フ

彼曰、佛考モナリ

撫順ハ一步モ譲ル能ハザルニ、烟台ハ王家ノ一票ニ於テ



よ

後日ノ我等ノ主張ハ全一ノ教ニ間休合ス可ナリ

我日ノ會議ニ其文書ニ如何ノ議ニナリヤ

彼日ノトモカノ會議ニ其ノ旨ヲ尋テ願ヒ其ノ條

條ニ因ニ休合スルノ相宜ニ於テハ融通ノ便法ニ

收濟ノ必要以外ノ以テモナシナリ

我日ノ協助ニ其ノ方議ノ全一ノ成ニ至ラズ

又日ノ全島備置ノ方法ニ其ノ止ム所ナリ

迎ノ便法ニ其ノ方議ニ其ノ方議ニ其ノ方議

彼日ノ佛尤ナリ我等ニ亦便法ヲ希望ス然レモ政府

今ト人民環視ノ中ニ其ノ委員トシテ薄弱ノ強

由ノ同意ニ其ノ能ハナシナリ

南滿洲鐵道株式會社

又日ノトモカノ會議ニ其ノ旨ヲ尋テ願ヒ其ノ條

條ニ因ニ休合スルノ相宜ニ於テハ融通ノ便法ニ

收濟ノ必要以外ノ以テモナシナリ

我日ノ協助ニ其ノ方議ノ全一ノ成ニ至ラズ

又日ノ全島備置ノ方法ニ其ノ止ム所ナリ

迎ノ便法ニ其ノ方議ニ其ノ方議ニ其ノ方議

彼日ノ佛尤ナリ我等ニ亦便法ヲ希望ス然レモ政府

今ト人民環視ノ中ニ其ノ委員トシテ薄弱ノ強

由ノ同意ニ其ノ能ハナシナリ

滿洲洲共北細川ノ開スル年子回會議録

(八月二十日全季賣出市)

答金問題續

彼曰、一昨日御再考、御立置タル鐵道問題ハ、  
ナリレヤ

我曰、鐵道問題ハ、移ル可一昨日ノ會議ニ於テ、本  
答テ約キレタル答テ同様に、無論決意セラレタル  
信ズルニ、一應ノ答テ置ナリレ

彼曰、貴總裁ノ回答アリタレヤ

我曰、不満足ナルニ、貴總裁ニ同意トナラハ決定トシ  
支ナキ旨回答アリ、トレト一昨日ノ説述ト本口方ヲ確

四十二年十一月二十日記錄

南滿洲鐵道株式會社

答テ共ニアルトキ、答テナラズヤ

彼曰、貴總裁ノ回答アリ、然レモ、貴總裁ニ於テ異議ナキ  
トナラハ決意答テナラズ

我曰、確意セルニトシテ、可ナリヤ

彼曰、貴總裁ニ於テ同意ヲ表セタルニ、決意トナ  
ナリ

我曰、然ラバ確意セルニトスル

彼曰、生價一昨日ノ會議ニ、當リタレバ、本  
ニ申出テアルニ、貴總裁ニ於テ同意ナレバ決定トナ  
ナリ

我曰、貴總裁ニ申出テ、結果ハ本口確答セラレ、約  
ナリレヤ

彼曰、其内浦ノバトハオシロシ、本口建着スバトハ高  
 モサレ等ナリ、ソノトモカシ、東郷者、其内浦ニ千餘ト百千餘  
 ノ中間即チ三千餘ト、其内浦ノ東郷者、其内浦ノ東郷者  
 マテ僅少ナリ、其内浦ノ東郷者、其内浦ノ東郷者  
 我曰、我等ノ内浦ニシテ、モトトモオシ、其内浦ノ東郷者  
 答テ其ノ内浦ニシテ  
 彼曰、諸君、其内浦ニシテ、モトトモオシ、其内浦ノ東郷者  
 答スレ

鐵道用款續

我曰、本口鐵道一昨ノ全線ニ於テ、最後ニ其内浦ノ東郷者

南滿洲鐵道株式會社

法ニ執、即者、其内浦ノ東郷者、其内浦ノ東郷者、其内浦ノ東郷者  
 會鐵ヲ中止スル外、其内浦ノ東郷者、其内浦ノ東郷者、其内浦ノ東郷者  
 テ者、其内浦ノ東郷者、其内浦ノ東郷者、其内浦ノ東郷者  
 彼曰、所請、其内浦ノ東郷者、其内浦ノ東郷者、其内浦ノ東郷者  
 見テ、其内浦ノ東郷者、其内浦ノ東郷者、其内浦ノ東郷者  
 リテ、其内浦ノ東郷者、其内浦ノ東郷者、其内浦ノ東郷者  
 個ノ範圍内、其内浦ノ東郷者、其内浦ノ東郷者、其内浦ノ東郷者  
 断シテ、其内浦ノ東郷者、其内浦ノ東郷者、其内浦ノ東郷者  
 我曰、其内浦ノ東郷者、其内浦ノ東郷者、其内浦ノ東郷者  
 ハ、其内浦ノ東郷者、其内浦ノ東郷者、其内浦ノ東郷者  
 其内浦ノ東郷者、其内浦ノ東郷者、其内浦ノ東郷者



マナリ依然計議、主張、固執せらるるに於て、全う合議  
進歩行、進、キヤリ

彼曰ク、計議、主張、固執せらるるに於て、

我曰ク、他國情、於て、貴方、主張、キヤリ

彼曰ク、他國情、於て、如何せん方法、マナリ

我曰ク、貴方、何る、具體的、考、キヤリ、貴方、於て、考

究、内、提、せらるる、モノ、ニ、モ、相、當、モノ、ナラ、ム、意、ス、ル、レ、ト、ノ

キヤリ

彼曰ク、便所、考、究、期、ハ、五、極、同、意、キヤリ、然、レ、モ、貴方

ハ、坂、口、赤、賣、ノ、所、理、確、定、不、可、動、ノ、モ、ナ、ラ、ム、一、步、一、寸、動、ス、ル、可、ク、

マ、ナ、リ、自、然、ノ、固、執、ノ、單、方、ニ、モ、通、ノ、便、所、採、ラ、ル、レ、ト、復、以

南滿洲鐵道株式會社

(五五) 南滿洲鐵道株式會社ノ意見書

サレバ、貴方、一、方、ノ、強、ク、シ、テ、本、同、社、ノ、協、定、利、益、不

可、能、ニ、シ、テ、一、日、も、早、ク、解、決、ヲ、望、ム、本、會、社、ノ、中、止、願、ハ、連

續、キ、レ、モ、止、ム、得、ザ、リ、キヤリ

我曰ク、爾、等、本、同、社、ノ、運、轉、外、其、利、益、同、係、ニ、モ、考、及、セ

ラ、レ、ト、シ、テ、望、ム、即、チ、他、國、情、以、テ、學、大、事、業、於、テ、其、一

却、テ、各、利、益、國、ニ、採、取、任、業、セ、シ、テ、利、益、利、益、更、見

可、ク、シ、テ、明、サ、レ、ル、殊、更、之、ヲ、分、割、ス、ル、ヨ、リ、單、一、口、此

際、滿、洲、鐵、道、社、ノ、運、轉、外、其、利、益、同、係、上、等、ノ、為、ニ、採、取

シ、タ、ル、貴、國、人、ニ、滿、洲、鐵、道、社、ノ、運、轉、外、其、利、益、同、係、上、等、ノ、為、ニ、採、取

手、段、ヲ、採、ラ、レ、ル、レ、ト、本、會、社、ノ、為、ニ、利、益、ナ、ラ、ム、ト、信、ス



本會議、遂に解決に達するに切望スル所ニシテ、殊に  
其國情より多ク時多ク、税金收入等ノアルリ無量ノ  
債務、均況し、且、日清戦争ニシテ、決然とせんが利  
ナラ、我等亦、烟草其他、向敷ニ於テ、無理ナシ、融通  
ニモ慮マハレ

彼等、貴族一應、尙且、微々タル土法、標榜が貴  
國ノ大経営ニ及ビザルニト明ナシ、且、韓方より、王  
族、角者、皆、正域外ニシテ、許ナシ、其ノ、  
總業人、皆、何事、理由ナシ、貴國ノ、  
ニ、果、許ナシ、取消、ハ、命令、的、  
ル、ニ、ナ、ス、業人、ホ、計、ニ、  
南滿洲鐵道株式會社

ニ、近、河、路、鐵、道、の、  
一、會、同、業、人、ノ、  
我、日、ク、  
彼、日、ク、  
謂、フ、ナ、リ

我、日、ク、  
彼、日、ク、  
我、日、ク、  
我、日、ク、  
謂、フ、ナ、リ

我、日、ク、  
彼、日、ク、  
我、日、ク、  
我、日、ク、  
謂、フ、ナ、リ



日考究キル可ク故ニ利害大局ニ考ルニ故ニ採ルニ事ニ  
実行ニ至ラズナキ事ナリ

且ツ撫順炭坑ノ附近ニ姑息城ノ炭坑ガ現スルニ是ヲ潰  
滅セシメテトクニ願ヒ容易ノコトナレバヤナリ

彼曰ク 貴國ノ利害ヲ計ルニ採ルニ政策ニ故服ノ外ナク  
自ラモ地位ヲ保テ必ラ公認ノ既ヲナスベキモ如何ニ相手

者ハ韓國人ニシテ他日自ラ潰滅セラル時ニトモアレ現時果  
服セザレバノミナシテ敵方提出ノ証據理由ヲルニ絶大

有力ノモノナラストスルニ左程無効ノモノナラズレバ信不  
成曰ク 敢テ今更ニ証據理由ニ就テノ論議ヲ及後セザル

モ主張ニ至ラズテ能ハズハ貴方ノ寧日此際利益ヲ收  
メラル方何ト思フモ他方ノ慮アル能ハズトアスホ今議ニ休  
止ノ外ナレバ

南滿洲鐵道株式會社

彼曰ク 貴國ノ利害ヲ計ルニ採ルニ政策ニ故服ノ外ナク  
自ラモ地位ヲ保テ必ラ公認ノ既ヲナスベキモ如何ニ相手

者ハ韓國人ニシテ他日自ラ潰滅セラル時ニトモアレ現時果  
服セザレバノミナシテ敵方提出ノ証據理由ヲルニ絶大

有力ノモノナラストスルニ左程無効ノモノナラズレバ信不  
成曰ク 敢テ今更ニ証據理由ニ就テノ論議ヲ及後セザル

モ主張ニ至ラズテ能ハズハ貴方ノ寧日此際利益ヲ收  
メラル方何ト思フモ他方ノ慮アル能ハズトアスホ今議ニ休  
止ノ外ナレバ

一時中止ノ外ナキナリ

彼曰ク 撫順針區ニ於ケル貴方ノ主張ハ其儘ニハ断レ

同意する所を以て一週間の會談が中止し御再考を願ふこと  
にせしむ  
我日ク會談中上ノレ言ノ最後ニ梅嶺鐵道ニ一步一歩ニ  
動カス可クナルモノナルトテ斷言シ今時ニ少シク内部ノ事情  
ヲ一考セムニ

一會社資本全額徳田内一徳田政府ノ名貸ニシテ鐵  
區鑛山ノ二大部ヲ一政府ニ此名貸ヲ會社ニ引渡ス  
ニ當リ大範圍ノ其他ノ事情ヲ以テセリ然レ今假ニ梅嶺鐵  
區ノ割スレトモハ割ニ對シテ政府ノ出資額ヲ減スル  
或ハ現金ヲ支出セサルモノナルヲナシテ政府ノ斷ニテ松  
嶺鐵道ノ割ニ應ズバカコアラザルナリ

南滿洲鐵道株式會社

一會社總裁ニ於テハ政府ヨリ國府其他ニ依リ引継ソ受  
ケタルモノハ割スレハ夫ニ對シテ政府ヨリノ補償アルニテ  
ラザレハ是亦斷ニテ應ズル他ニザレナリ

一次に現時ヨリ東ニヤン鐵道松田支店長ノ當初ヨリ梅嶺鐵  
道ノ開發計劃ニ於テハ會社ハ政府ヨリ引継ソ受  
ケタル範圍ヨリ基礎トシ第一第二期ノ三期ニ分テ梅  
嶺支店經營ノ大計畫ヲ主テ目下ハ其第一期ノ計  
畫ヲ実行セルニテ將來第二期第三期ノ計畫ニ進カ  
ニ從ヒ鐵道ニ大發展ノ途ニ進長セラルヘク計也又ハ  
古城子方面ノモ聖城ヲ卸ストハナリ居レリ  
サレバ割ハ松田支店長ノ計畫ヲ松本ヨリ轉讓



タルモラ確立スバドノヨトナラムト思フ即チ鐵道ノ中央ニ  
「線ノ劃シハ割スルノ義ニテラサルニトハ虚心平氣ニ考メ  
ハ明ナラム

彼日ノ貴族ノ如ク引越當時既ニ一定ニ鐵道區間アリタ  
ルナラハ貴國公使及領事於テ裁クニサレテ其ナラ  
シテ滿洲協約ニ於テ協定スルニ約スル必要ナラシ  
明治甲午年亦嘗テ其地ニ於テ接境在議ノ際貴國領  
事ニテ「思合ニ有テ鐵道ノ協定成ルニテ相互中其ノ  
云々」云々トナリ貴方ノ事權トシテハサルコトナリ理由  
ハナラカレリ

備考 滿洲國領事ニテ「思合」云々アリ

南滿洲鐵道株式會社

抄目ノ 思合文ニ係ル地ト謂フニ塔子溝ニ於テ鐵道  
ノ常ニ停頓ノ地有テ於テ鐵道ノ如ク當時ノ事情亦  
今一思合ニ係ル地ト云ハルマデナリ然レトモ係ル地  
ト謂フニ於テハ割セシムル可クハ陸境ノ主ノ責任アリ  
彼日ノ辭條ハ公文ニ係ル地ト云ハル故ニ以テ割セシム  
ラズト云フナラシク貴族ノ貴族社ハ鐵道總理部又政府  
ナリ引越ノ後ケラレシ貴族社ハ鐵道區間ノ外ニ一定セ  
ノ議ヲ排セルナリ

抄目ノ 然リ由却ニ於テ確立セル國ト國トノ關係  
於テ貴國ノ公使ニ「思合」云々ト云フ故ニ未定トモ  
「尤モ前件交還可陶大均」云々ト云フ之ヲ認メシムルモ故

ニ因テ其ノ理由由ニ依リテ之ヲ承認セシメトスルナリ  
彼曰ク 即チ該區ノ當時ニ於テ其ノ決定ハ之ノ如キナリ  
是ハモトトシテ協議セラルベシ

我曰ク 何レトモ可ナリ、タニ其ノ理由由ヲ盡クシテ協議  
ノ結果ノ比較スルハ弊義便ニ云確ナリ、トシテ其ノ既述由  
却ノ事情モアリハ利害ノ大別ヲ示シ、其ノ義認スルハ  
ラレドモ可ナリ

又曰ク 該海峽ハ本トモ十ノ畫ニテ其ノ結局雙方ノ主張  
同意シ他ニ無通、便所ノ考案セリ、トシテ其ノ情勢ハ公  
議ヲ中止スルハ其ノ確義セラルベシ  
彼曰ク 是モモトトシテ其ノ理由由ニ依リテ其ノ決定  
モトトシテ一歩ノ歩キモ動カストナリ、トシテ其ノ同意セシメ  
我曰ク 或ハ是ノ假令時計トモ( )ガ時所ニ在ルハ其ノ何ナリヤ  
亦是ナリ、トシテ其ノ度之ヲ降下、且モ其時計タルトシテ其ノ  
ナレバ即チ該方ノ承認理由ニ依リテ其ノ決定ハ確  
定セラルベシ

南滿洲鐵道株式會社

彼曰ク 貴方ノ夫ノ時計ト認メラルベシ、モ該方ノ時計ト認メ  
ラレザルナリ  
我曰ク 然レドモ時計ハ事實ニ於テ時計ナリ、新セ  
又曰ク 上モカク、ニ通前休會、且十ノ考案セラルベシ、尚  
亦時計ノ時計ト認ムル理由ニ就テ、我等モ考ヘ置  
ル



彼曰ク、ヨリ以上ノ調査研究ハ必要ナカレドモト信ス、貴  
方ノ如ク既ニ一旦セルモノトシテ、一歩を動かカザルニ於テ到底  
不可ナリ

我曰ク、故ニ融通便法ノ出立トモテ、烟台其他ノ内題ニ於テ  
無理ナシ方法モ精ニスレドモ、トモナリ  
彼曰ク、一、通商は休令ノ上再議スル可ナシトモ、更ニ  
モトシテ、接順鎮正以外ノ内題ニ涉テ融通セザレトスル  
ニ於テ、更ニ數回問テ貴ニ到底不可ナリ

我曰ク、貴方ハ何レモ可ナリ、休令(銀行)取テ同  
論議ハ云々、貴ニカレ  
彼曰ク、貴方ハ、トモナリ、協議ニ進歩セシムルニ於テハ明

南滿洲鐵道株式會社

日ヨリ引續テ會議カシモ可ナレドモ、一旦ノモノトシテ、無臣國  
ニ一歩を動かカザルニ於テ到底不可ナリ、或ハ更ニ協  
議ノ上夫等ノ決定ニモトシテ、考案ノ為メ、通商休令ス  
ルモ可ナリ

我曰ク、撫順鎮區ニ於テ融通ノ方格ナキトシテ、鐵道セルガ  
如シ他ニ融通ノ方格ヲ考案セウモノハ、休令スルモ可ナリ  
彼曰ク、然ラバ、撫順市堂ニテ改定ノモノナラヤ

我曰ク、確定セカレバ故ニ承認ヲ求ムルナリ  
彼曰ク、未定ナレバ何故融通ノ方格ナキヤ  
我曰ク、有リ即チ他ノ方格ヲ融通スレトモ、據ルベシナリ  
彼曰ク、此ノ如キハ同意スル能ハス











如シ之ニ對シテ我方斷然之ヲ拒絕スルノ方針ヲ  
執ルニ於テハ今後商案等之解決スル能ハサシ  
ムレト察セラシ

南滿洲鐵道株式會社

南滿洲鐵道株式會社  
支店長 佐藤 謙  
支店長 佐藤 謙  
支店長 佐藤 謙

換烟西炭坑細則ニ關スル第一一〇回會議録

(九月五日全委員出席)

備考

前回會議ノ劈頭ニ於テ口約セル重指問題ニ付會議ノ翌日即チ八月二十三日交渉使ヨリ吏員ヲ我カ總領事館ニ派シテ總督ノ同意ヲ得タル旨ヲ告知セリ即チ重指問題ニ付清國側ハ出井稅率出ノ基本タル石炭ノ原價ヲ一率ニ庫平倍兩トスルノ主張ヲ讓リノ日々ノ出炭高三千屯未滿ハ庫平倍兩トシ同三千屯以上ハ全体ニ對シテ日本貸付田トスルコトナリ並ニ各省ヲ遍シテ西炭坑ノ石炭ノ重指ヲ免除スルコトナレリ我方ハ右ノ代償トシテ毎年金五萬兩ヲ清國ニ交付スルコトナレリ

四十二年十二月二十日記錄一部受

要復寫

鑛區問題續キ

我曰ク 先般ハ相互ノ意見一致ヲ欲シ為メ折角ノ交渉ヲ中止セリ其後定メテ御良案アリシコト思フ如何ニヤ  
彼曰ク 我方ニハ差シタル妙案モ考ヘ付カザリシモ方コソ御熟考ノ上御考案アリシコト、思フ更シテ報リタシ  
我曰ク 我方ニモ良案ナレ宜ハ中止ノ段ニ委員大連ニ出頭セラレ本社總裁其他重役ト種々相談セラレタルモ以前ノ主張ヲ遂行スル外致方ナレトノ事ナリ  
彼曰ク 然ラハ本日ハ如何ナル話ヲ為スベキカ撫順カ將夕烟台ノ鑛區ニ付キ  
テカ  
我曰ク 先ツ撫順ヨリ議定セン先頃本社ニ出頭シタルニ總裁ハ政府カ出資ノ

十月五日  
理事會  
同家  
社  
上  
ノ  
事  
情  
ヲ  
察  
セ  
ラ  
レ  
分  
割  
ヲ  
主  
張  
ス  
ル  
コ  
ト  
ナ  
ク  
速  
ニ  
本  
件  
ノ  
解  
決  
ヲ  
告  
ゲ  
ン  
コ  
ト  
切  
ニ  
ト  
ス  
ル  
ナ  
リ

一部トシテ四面ヲ以テ列繼ギタル撫順ノ鑛區ヲ分割スルニ於テハ政府ノ出  
資額ヲ減少セラル、カ然ラズンバ之ニ相應スル對價ヲ給セラル、ニアラズンバ分割  
レ得ヘキニアラスト云ハル仍リテ東京支社ヲシテ外務省ニ交渉セシメタルニ外務  
省ニ於テハ戰捷ノ結果トシテ我國ノ得タル撫順炭坑ナルモノハ炭層ノ一部分ナ  
リト信スル能ハサレバ断シテ之ニ應スル能ハストノ事ナリキ去レハ總裁ニ於テ  
モ政府ニ於テモ之ヲ分割スルカ如キハ到底不可能ノコトナリ貴方ニ於テモ此  
ノ事情ヲ察セラレ分割ヲ主張スルコトナク速ニ本件ノ解決ヲ告ケンコト切ニ  
冀望スルナリ

彼曰ク 全部四面ノ區リノ鑛區ニハ同意出来サルナリ區日總督出資ノ際ニモ  
鑛區ニ付キテハ領地界ニヨリテ分割スベキ旨ヲ差函シ置カレタレバ貴説ニハ断  
然同意シ難シ

我曰ク 貴方ハ撫順界ト云フニ至極重キヲ置カル、モ是レ甚ダ見解ノ誤レル  
モノナリ 今日ハ從來主張セサリシ所ノ新証據ヲ以テ其誤解ヲ指摘スベシ  
抑モ貴方ハ撫順鑛區ニ付キ初ヨリ六個ノ理由ヲ提出セラレテ分割ヲ主張セラ  
レタルモ何レモ論據薄弱ニシテ我方ノ打テ破ル所トナリ今日唯一ノ論據トシ  
テ主張セシレ居ルハ即チ増祺將軍ノ上奏書ニ「撫順界千山台地方ノ煤」ト  
アルヲ以テ撫順界ヲ以テ境界ヲ定メサルベカラスト云フノ一点ナリ然レトモ此論據  
モ亦採ルニ足ラサルコト陳ブルニ當リテ河東、河西ノ二個ニ區別シテ論セン  
河東區ニ付テハ此証據書類(之ヲ示ス)ニモ記載セル如ク、我軍政時代ノ調査ニ據  
ルモ河東鑛區ハ「西ハ楊柏堡河ヨリ東ハ夾邦山ニ至ル其距離三十餘浬」  
渾河岸ヨリ六七浬、南方迄ノ間ニシテ楊柏堡、老倂台、万連屋等ノ炭坑ヲ含  
有ストアリ即チ河東區ハ楊柏堡河ヨリ夾邦山ニ至ル間ニシテ東境ハ東洲河ニ連

中ニ

此  
上  
之  
心  
胸  
開  
闢

預ノ鑛區ヲ分割スルニ於テハ政府ノ出  
相應スル對價ヲ給セラル、ニアラズンバ分割  
支社ヲシテ外務省ニ交渉セシメタルニ外務

付タル撫順炭坑ナルモノハ炭層ノ一部分ヲ

スル能ハストノ事ナリキ去レハ總裁ニ於テ

ハ到底不可能ノコトナリ貴方ニ於テモ此

トナク速ニ本件ノ解決ヲ告ケンコトヲ切ニ

同意出来サルナリ區日總督出茂ノ際ニモ

ベキ旨ヲ差函シ置カレタレバ貴説ニハ斷

重キヲ置カル、モ是レ甚ダ見解ノ誤レル

川ノ新証據ヲ以テ其誤解ヲ指摘スベシ

個ノ理由ヲ提出セラレテ分割ヲ主張セラ

ノ打テ破ル所トナリ今日唯一ノ論據トシ

上奏書ニ「撫順界千山台地方ノ煤礦」ト

サルベカラスト云フノ一点ナリ然レトモ此論據

ノ河東、河西ノ二個ニ區別シテ論セン

ニモ記載セル如ク、我軍政時代ノ調査ニ據

テハ夾邦山ニ至ル其距離三十余浬

レテ楊柏堡、老佛台、万達屋等ノ坑ヲ含

テ夾邦山ニ至ル間ニレテ東境ハ東洲河ニ達

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

此ノ如キコト  
應ズ一應  
申合ス

シ居ルヲ明ラカナリ(此時地圖ヲ示ス)次ニ光緒二十七年八月七日付増祺將軍ノ試掘許可書ニ據ルニ「可略請願者等ニ試掘ヲ准スヘシ興京副都統及ヒ義德縣撫順路記ニ命シ保護彈壓シ且出示曉諭ヲ為サシム云々」トアリ即チ河東區ノ撫順界ニ限ラスシテ興京界ニ亘リ居リタルトハ興京副都統ニ命シテ保護彈壓セシメタルヲ見テ知ルヘシ故ニ貴説ノ撫順界ヲ以テ鑛區トスル見解ノ誤レルトハ疑ヲ容ルノ餘地ナシ河西區ニ付テハ此証據書類ニ據ルモ「東ハ楊柏堡河、西ハ大瓢屯ニ至ル十清里南ハ塔裕山ヨリ北ハ渾河々畔ニ至ル六乃至七清里ノ間トス即チ千金寨、古城子、大小瓢屯ヲ含ムモノトス」トアリ次ニ光緒三十年十月馬龍潭利鴻漢程文斌丁福裕ノ四名ヲ以テ組織セラレタル廣濟公司ナルモノ大瓢屯乃チ東ハ古城子界ヨリ西ハ大漢武溝南ハ小漢武溝南峯ヨリ北渾河屯ノ間ニ在ル炭礦ヲ開カン「ト」ヲ出願シタルニ王兼堯ハ之ヲ聞知シ

將軍ニ向ヒ自己即チ華興利公司ニ屬スル地圖ヲ示シ其鑛區ハ自己ノモノナルヲ辨明シタレハ終ニ馬龍潭等ハ許可ヲ得ルニ至ラズ云々ト記載セリ我方ニ於テ王兼堯ニ直接聞キタル所ニヨルモ右ノ事實アリ然ラハ則チ河西區ニ付テモ古城子河ヲ以テ境界トスルノ理由ナク我方提出ノ圖面ヲ以テ王當ノモノトシヤハ疑ヲ容レス

以上ノ証據書類ニ依リ撫順炭坑ノ鑛區ハ我方主張ノ正當ニシテ理由アルヲ明ラカナリ撫順界ヲ以テ河東區ヲ劃シントスルカ如キハ斷シテ之ニ應スル能ハス  
 彼曰ク 王兼堯カ圖面ヲ示シテトアリ本人ハ圖面ヲ所持スルヤ  
 我曰ク 所持スル者ナリ本人ニ付キ一覽セラレタシ  
 彼曰ク 貴方ハナキヤ  
 我曰ク ナシ

彼曰ク 王業竟ヨリ提出シタル図面ハ曾テ見タルヲアルモ貴方去ハルカ如キ地名ナカリキ

我曰ク 王業竟ノ提出シタル図面アラハ拜見シタシ

彼曰ク 將來御目ニ掛ケテモ宜シ

我曰ク 吾等点ノ證據トナルベキモノナレバ唯今拜見シタシ

彼曰ク 御目ニ掛ケテモ宜シ併シ貴説ノ如ク河東ト河西ニ付テ鑛區ノ事アリシ  
「アルモ古城子河ノ事ハナシ

我曰ク 吾等我カ云フ所ハ楊栢堡河ニ付テ云フニアラス曾テ王業竟ハ翁壽トノ  
間ニ蘆沿坑ノ依拠ヨリ劇烈ナル鑛區ノ事ヲ為シ其結果血ヲ見ルニ至リタル  
アリ是ハ楊栢堡河ニ於ケル鑛區ノ事ニトナリ 我方ノ今主張セルハ大抵モニ  
於ケル鑛區ノ事ニシテ廣濟公司ト華興利公司ノ間ニ起リタルヲナリ

彼曰ク 翁壽ト王業竟トノ事ニ關スル書類ハアルモ貴下ノ去ハル、廣濟公司ト華  
興利公司トノ 論争ニ關スル書類ハナシ

我曰ク 然ラハ王業竟ヲ呼出シテ御取調ベアレバ明カナリ

彼曰ク 王ハニヶ月前ヨリ病氣ニテ引籠リ居レリ併レ漸ク全快シタルヤニ聞ケハ近日  
喚出シテ取調ベン

我曰ク 河東ニ付キテハ前陳ノ如ク確實ナル新證據モアレハ無論御異議ナク  
主張ヲ容シラム「ト信ス

彼曰ク 河東區ハ興京取ト撫順界トニ跨レリト云フ貴説ハ我方信スル「能ハス  
何トナレバ撫順路記ハ下級官吏ナリ<sup>而シテ</sup>彼ハ興京副都統ノ屬官ナル「御兼知ナ  
リマ

我曰ク 路記ハ副都統ノ屬官ナリトハ我方ノ知ラサル所ナリ



彼曰ク 將軍カ命ヲ下シ下級官吏ヲシテ事ヲ處置セシムルニ先ツ上級官吏ニモ其旨ヲ通スルノ必要アリ去レハ路記ヲシテ事ヲ處セシメントスルニ當リ副都統ヘモ同一ノ命令ヲ下シタルナリ故ニ之ヲ以テ直ニ興京縣ト兼德縣トニ鑛區カ直レリト推測スル事能ハサルナリ

我曰ク 夫ハ牽強附會ノ説ナリト認ム文面ニ於テ明カニ興京副都統及ヒ兼德縣撫順路記ニ命ジ云々トアリ及ビテ上下ヲ倍ビ双方ノ官吏ヲシテ保護彈壓セシムルノ意ヲ示セリ 若シ貴説ノ如ク副都統カ上級官吏ナルカ故ニ之ヲ奉ゲタリトセハ單ニ副都統ダケヲ奉ゲテ路記ヲ奉クルノ必要ナキニアラスマ例ヘハ今北京政府カ東三省ノ事ニ付或ル命令ヲ下スニ當テ階級ノ大ニ異ナルモノヲ双ツナカラ奉ゲテ總督及ヒ村長ニ命ジテ云々ト記載スルコトアルヘキヤ

彼曰ク 若シ貴説ノ如クニハ増祺將軍ノ上奏文ニ單ニ撫順界ト書カスレテ興京界ヲ含ムト記載スヘキニアラスマ然ルニ之ヲ記載セサルヲ見テモ撫順界ニ限レルコト明ラカナリ

尚又下級官吏ノ路記ニシテ 單独事ヲ處セシメンカ人民ノ兼服セサルコトアラシモ計リ難シ故ニ上官ヲモ奉ゲテ事ヲ處理セシメタルナリ即チ知府ニ事ヲ行ハシムルニ道台ニモ之ヲ知ラシムルノ必要アルト同一理ナリ

我曰ク 増祺將軍上奏ノ際ハ炭層ノ事明ラカナラサリシナリ然ルニ其後ニ人ノ官吏ヲ派シテ實地ヲ調査セシメタル結果莫大ナルコトヲ知リレヨリ試堀許可ヲ與フル時ニ興京副都統ニモ命ジテ保護彈壓セシムルノ必要ヲ生レタルナリ 而シテ其後露國ノ参加スルニ至リテ鑛區ノ事一層明白トナリタルモノナリ

彼曰ク 夫ハ確實ナラサルベシ  
我曰ク 露國ノ証據書類ハ此ノナリ君レリ即チ河東區ハ初メ資本金ニ  
三千兩ノ会社ナリシカ炭層ノ大ナルヲ知ルニ及ヒ増補將軍ハ五千兩ヲ出シ  
露國「ルビノーフ」ハ一萬七千兩ヲ出シテ合計四萬五千兩ノ会社ト為シタル  
ヲ記載セリ

備考 (此時証據書類ヲホス)

彼曰ク 英文書ハ露國ノ官文ナリヤ  
我曰ク 然リ公証ヲ經クル所ノ公文ナリ  
彼曰ク 露國文書ハ決シテ義認スル能ハサルハ前説ノ如シ尚又「ルビノーフ」  
ニ對スル其後ノ取消アリシヲ謝業知ナリヤ  
我曰ク 再三説クカ如ク初メハ鑛區ノ大ナリシヲ知ラサリシモ貴國カ官吏ヲ

派シテ實地ヲ調査セシメ或ハ露國カ試錐ヲ為スニヨリテ其大ナルヲ  
知レルナリ仍リテ増補將軍モ公司ニ加入シ鑛區ノ大ナルヲ認定シタルモノ  
ナリ然ルニ貴方ニ於テハ鑛區ノ真相不明ナリシ時ニ於ケル將軍ノ上卷文  
ヲ撫順界云々ノ文字アルヨリ之ヲ固執シテ鑛區分割ノ理由ト為サントハ  
ルハ誤レリ

彼曰ク 貴國ハ露國ノ評文ヲ以テ確定不動ノモノトセラル、モ己ニ將軍ニ於  
テ「ルビノーフ」ニ對シテ取消シタルモノナレハ空文ニアラズヤ  
我曰ク 今ハ此ヲ如キ枝葉ノ議論ヲ試ムヘキニアラス鑛區ノ事ヲ議スルモ  
ノナレハ其東西ノ境界サヘ明ラカニセハ足レリ仮リニ將軍ハ「ルビノーフ」ノ契  
約ヲ取消シタリトスルモ取消ノ有無ハ鑛區ノ範圍ヲ定ムル上ニ於テ差支ナ  
キ筈ナリ

彼曰ク 上巻書ニ撫順界トアリテ後ニ其鑛區カ興京界ニ亘ルヲ知  
トセハ更ニ之ヲ附加スルノ上巻ヲ要スル苦ナラズヤ然ルニ此第ニノ上巻ナルモ  
ノハナシ

中七

我曰ク 否將軍上巻後ハ風水ニ害ナキ限リ任意ニ許可シ得ルコトニナリ吾レ  
リ此意味ハ上巻<sup>文</sup>モ記載サレアリ且初メ五清里ノ長サト思ヒテ上巻シタ  
ノカ實際六清里ナリトシテ又改メテ追加ノ上巻ヲ為スノ必要アルヘキ苦ナシ  
彼曰ク 上巻文ハ貴方ノ如ク解釋スル能ハス

備考 茲ニ於テ双方暫ラク沈黙ス

我曰ク 大体ニ於テ撫順鑛區ハ阪口委員ノ説カレタルカ如ク政府出資ノ一部  
ナリ故ニ之ヲ分割スルニ於テハ之レカ代償トシテ政府ハ最初ノ出資ヲ減少スル  
カ或ハ更ニ資金ヲ出シテ之ヲ補填スルニアラサレバ滿鉄總裁ニ於テ分割

ニ應スル能ハサルナリ又日本<sup>山</sup>府ニ於テモ撫順鑛區ヲ分割シテ滿鉄ノ要  
求ニ應スルカ如キ<sup>丁</sup>ハ断シテ為ス能ハサル所ナリ 初メ我方ヨリ五個ノ証據  
ヲ提出シテ撫順鑛區ノ説明ヲ為シタレハ充分御了解ノ<sup>ト</sup>ト思フ此証  
據ヲ排斥スルニ足ルヘキ証據存スレハ我々總裁ハ告ケテ總裁ハ之ヲ政府  
ニ申出テ以テ解決ノ方便モアルヘケレトモ貴説ハ何レモ薄弱ニシテ採ルベキ  
價值ナシ 我カ公平ナル立場ヨリ見テ貴國ノ証據ト我方ノ証據トヲ比較スル  
ニ貴方ノ証據ハ如何ニ考フルモ是認スルヲ得ス故ニ此辺ニテ我方ノ提議ノ  
ク決定セラレテハ如何

彼曰ク 外務省及總裁ニ於テ分割スルヲ得ストノ御主張ハ一應御尤ナリ併  
シ貴國ノ主張ハ何レモ露國ノ文書ニ依ラレタルモノナリ若シ王業克其他清國  
例ニ於ケル確實ノ証據アラハ之ヲ上官ニ申告シテ貴主張ニ應スル様



中ハ

勸告センモ我方ニ於テ信セサル所ノ露國ノ文書ニ依リテノ証據ハ之ヲ上  
官ニ申告シテ讓歩ヲ強ユルノ理由トナスラ得ヌ故ニ最モ公平ナルモノヲ撰  
バンカ即チ將軍ノ上奏文ニ依ルハ外ナシ且我方今ヤ民意上達ノ機開モアリ  
確實ナル証據ナクシテ之ヲ全部貴國ニ讓ルハ能ハサルナリ且又貴國領事ノ  
公文書ニモ未定ナレハ相互ノ核定ヲ經ル迄云々ノ語アリ此クノ如キ土地ナレハ  
總格ハ當初ヨリ之ヲ分割レ得ルモノト信シ居ラルナリ

我曰ク 貴方ハ露國ノ文書ニ重キヲ措カズ單ニ自國ノ上奏文ノミヲ固執セラル  
ルモ其上奏文タルヤ鑛區ノ延長ヲ明ラカニセス甚ク不完全ナルモノナリ去レ  
ハ數多ノ証據書類ヲ集メテ鑛區ノ境界ヲ辨納スルノ外ナシ我方ハ露國ヨリ  
此炭坑ヲ得タルモノナレハ露國ノ証據モ固ヨリ参照スルノ要アリ故ニ此問題ニ  
付初メ第一着ニ貴方ニ於テ露國ノ証據ヲ充分調査セラレンコトヲ乞ヘリ然

ルニ此事ヲ為サス自國ノ上奏文ノミヲ主張スルハ不可ナリ我方今一々前説  
ノ証據ヲ繰返スコトヲ為サルモ要スルニテ數ノ証據ヲ集メサレハ帰納スル  
コトヲ得サルナリ

貴方ニ於テハ之カ解決ニ付何トカ便法ナキヤ先日已ニ税金問題ヲ議シ  
炭坑ハ何時ニテモ納税シ得ル様用意シ居レリ然ルニ鑛區ニ付存案時日  
ヲ費スハ何ノ益スル所アラシヤ仮リニ鑛區ノ一割ヲ割キタリトテ實際  
稼行レテ撫順炭坑ト競争シ得ルモノニアラス故ニ寧ろ撫順ノ方ハ我方ニ  
同意アリテ他方面ニ於テ我モ讓歩スルコトスヘケレハ貴方ハ他ノ方面ニ於テ  
利益ヲ獲ラル、ニ如カスト思フ

彼曰ク 總領事ノ御厚意ヲ謝ス貴國ノ日清露文書ノ証據ヲ集メテ辨  
納スル所ニ決セントノ御意見ハ尤モナルコト、思フ保シ鑛區ニ就キテハ

確實ナル証據ナケレハ如何ナル便法ヲ用フルモ之レカ歸納ヲ得テ決定セシ  
「甚タ六ヶ敷カラシ

中丸

且又總督出立ノ際小官ヨリモ鑛區ノ數ニ付相互譲歩シテ速ニ解決スル  
ヲ勸メシモ頑トシテ應セラレス我方ノ証據ヲ煙滅セシムヘキ反証奉ラサル限リ  
決シテ譲歩ハ出来サル旨言ヒ殘サレタレハ我が立場トシテハ其言葉ノ未タ耳  
ヲ離レザルニ譲歩ノ「ヲ勸ムルカ如キハ決シテ為シ能ハザル處ナリ  
而シテ便法去々ト申サレタルモ鑛區ヲ離レテ他ニ決シテ便法ナシト思ハルガ貴  
方ニハ如何ナル便法アリヤ兼リタシ

我曰ク 我方ニ於テハ無理ナル注文ハ為サザル様注意シ居レリ 何分鑛區ハ  
金銀ト異リテ其分割容易ナラズ故ニ一鑛區ヲ分割スルニハ分割止ム  
コト得ザル証據ナカルベカラズ然ルニ貴説ハ單ニ我方ヲ確證ナラズトノミ

主張セラレテ排セラルハ當ヲ得サルコト思ハル 我方便法ト云フハ撫順鑛  
區ヲ絶對ニ分割セザル代リ烟台鑛區ノ方ヲ譲ルカ如キ方法ナリ

取口委員ガ先キニ陳ベシカ如ク撫順鑛區ハ政府ノ引継ヲ受ケタルモノニシ  
テ之ヲ任意ニ分割狭小ニスル「ハ不可能ナリ然ルニ貴方ノ或ル事情等ハ人  
民ニ採掘ヲ許可セラレタル如キ「ナラント想ハル之ニ就テハ別ニ便宜ノ方法  
アルベシ

彼曰ク 鑛區ハ地面ニ表ハルモノナリ衆目ノ見ル處ナリ万人ノ眼ニ映セサル便  
法アルモ之ニ應スル「能ハズ鑛區ヲ離レテノ貴説ハ事情下決シテ同意シ能  
ハサルナリ

我曰ク 理論ノミニテハ為シ難キ莫モアルケレ共政略上御便利ヲ謀ルベシ其  
手段ノ如キハ又如何様トモ取計フベシ

目下幸ニ統督モ北京ニ御滞在ナレハ此巴ノ消息ヲ今一應御照会アリ  
ラシ

中十

彼曰ク 既ニ個人ニ採掘ヲ許可シタルモノニ對シ御考案ヲ兼ラン

我曰ク 此ノ如キ御尋ねアルハ豫想セザリシニ依リ相談致シ居ラズ併シ今  
何々所採掘ヲ許可セラレアルヤ

彼曰ク 既ニ許可シタルモノト出願中ノモノニ合セ四ヶ所ナリ

我曰ク 出願中ノモノハ別トシテ 既ニ許可セラレシモノハ幾ヶ所ナルヤ

彼曰ク 何レモ既ニ許可シテ

我曰ク 果シテ然ルカ 各幾何ノ資本ヲ投シタルヤ又何程ノ資本ヲ投セントスルヤ

彼曰ク 既ニ開掘ニ從事セシモノモアリ

我曰ク 是等ニ對スル御取調、為リ居ルヤ

彼曰ク 我カ官憲中兼知レ居ルモノアラン

我曰ク 推察スルニ韓大人ノ御考へハ人民採掘従事中ノモノ或ハ採掘許可ヲ  
得タルモノニ應分ノ資金ヲ與ヘヨトノナランカ尤様ナレバ之ヲ会社ニ謀リ

テ可然取計ハシカト思フ如何ニヤ

彼曰ク 彼等人民ハ金錢ヲ欲セザルベシ若シ貴方ヨリ金ヲ更ケンカ即チ永久

ニ採掘ノ權ヲ放棄スルモノナリ

貴説ハ人民ニ於テ承諾スルカ否或ハ總督ニ於テ同意セラルカ否モ明カナラザ  
ルナリ併シ一度ビ問題トシテ提出セラレタル以上ハ我方ハ参考トセン

我曰ク 地ヲ換ヘテ我ナレバ喜ブ直チニ承諾スベシ如何トアレバ大計画ヲ以テ

採掘スル炭坑ノ傍ニ徴々タル資本ヲ以テ採炭スルモ決シテ利益ヲ得ルノ望ナ  
ク尚又撫順炭坑ハ之レカ運搬ニ銚道ヲ有セリ遼々タル馬車ニテ運搬スルト

同日ノ談ニアラズ如此利害得失明カナルハナシ貴方ニ於テ之ヲ人民ニ示サル  
レバ應セザルノ理ナシ

中十一

併シ之ヲ日本側ヨリノ提議トシテ人民ニ計ラレハ千円ノ資本ハ一万円ト  
ナリ一万円ノ資本ハ五万円トナルノ劇増アラン此也ハ御含ミアリテ唯タ韓大  
人ノ意見トシテ總督及人民ニ對シ會社ヨリ多少ノ涙金ヲ出サシメ以テ鑛  
區問題ヲ決定シタシトノ一ニ致サレタシ

亦モ會社ハ義務トシテ多額ノ出金ハ為ササルナリ唯事情ノ憐ム所アレバ少額ノ  
金ヲ支給スルノミナリ

彼曰ク貴説ノ如ク土法ノ採掘利益ヲ得ルハ能ハサルハ御尤モナリ然ルニ人民  
ハ坑區ヲ欲スルナリ故ニ今之ニ金ヲ與ヘテ採掘權ヲ放棄セヨト強ユルト甚  
ク困難ナリ殊ニ總督出立ノ際吳レクモ鑛區ノコトハ撫順界ニ限ルト言ハレ

タレバ貴説ヲ今照會スルモ無益ナリ

我曰ク先ニ萩原前領事未定地云々ノ御話アリタル其未定地内ニ貴國官憲  
ハ採掘ヲ許可セラレタルハ甚ク不都合ナラズマ理窟ヲ以テセバ貴國官憲  
ノ人民ニ對シ年價金ヲ出シテ採掘ヲ中止セシムベキモノナリ併シ我方ニ於テハ  
理窟ヲ申サズ事情ヲ察ヒテ多少ノ金員ヲ給與セントスルナリ免ニ角我方ノ意  
アル所ヲ一應總督ニ御聞キ合セアリタシ

彼曰ク本會議ノ事ハ毎日總督ニ報告スベケレバ貴説ノ金員給與説モ一應  
ハ總督ニ聞キ合スベシ然レトモ無論不同意ナラン屢々申セシ如ク總督ニ於テハ  
撫順界説ヲ固持セラルレバナリ又小官ニ於テモ他ノ便法アレバ免モ角唯今  
ノ説ニ付キ同意ヲ得度キ旨ヲ勸告スルハ立場トシテ出来ザル所ナリ  
我曰ク我方ニハ無理ハ申ササル積リナリ總督へハ我言ヲ具儘ニ報告セラレ



タシ 總督ニ於カセラレテハ區々タル事ヒク措テ大局ヲ考ヘラレ總領事  
ハ甘キ意見ヲ持セリト云ハル、ナラン 既ニ税金問題ノ決定シタル今日撫順ニ於  
テハ我主張ヲ容レル、モ烟台ニ於テ利益ヲ獲ラル、ナラバ却テ貴方ノ利益ナ  
ラン

彼曰ク 貴説一應ハ總督ニ報告スベシ併シ多分不同意ナリト信ズ所謂  
未定地カ既定地ト變ズレハナリ

我曰ク 總督ノ御區事アルヲ待テ其御區事ヲ会社ノ方ヘ通知スベシ

又曰ク 總督ノ區事ヲ待ツマテ他ノ王業竟ノ件ニ付テ議セシカ貴意如何

彼曰ク 總督ノ區事ハ多分不同意ナラン

此外御便法アラバ研究トシテ拜蒙セン若シ無クハ烟台ノ方ヲ議セン王業竟ノ  
件ニ付テハ彼レ自身出頭シテ陳述スル様申出テ居リ故ニ先ツ烟台ノ方ヲ議シ

テハ如何

我曰ク 烟台ハ撫順ト關聯シテ議スル様先刻申シタリ故ニ之ハ總督ノ區事  
アリテ後同時ニ議スルトセン我ハ烟台ニ對シテハ非常ナル讓歩ヲ進ナサント  
思フナリ

彼曰ク 烟台ハ如何ナル程度進讓歩セララル、ヤ

我曰ク 夫レハ未タ腹案ナシ 撫順ニ於テ我主張ヲ容レルトキハ大ニ讓歩ヲ

為サン然レトモ未タ總督ノ區事ナキ内ハ其讓歩ノ程度モ明カカラザルカリ

又曰ク 韓大人ニ於テ我提議ヲ賛成セラレ之ヲ總督ニ同意アル様勸告セ

ラレ總督ニ於テモ大体ニ於テ我カ主張通り同意セラレシナラバ其讓歩程

度等モ本日相談シテ定メ置カン

彼曰ク 報告ハ致スベシ併シ賛成ハ為サルナリ

我曰ク 兎ニ角報告セラレ度シ

彼曰ク 諾

我曰ク 回答ノ未ルマデ別ニ議スルコトナケレハ會議ハ中止スベキヤ

彼曰ク 王萊克出頭セサルモ彼レニ對スルコトヲ議セン會社ヨリ王ニ喚ヘラル金額

ハ何程ナルヤ

我曰ク 知らズ未タ萊知セザルナリ

又曰ク 會議ハ暫時中止センカ

彼曰ク 王萊克ニ對スル會社ノ意見ヲ確メラレタシ

我曰ク 王ノコトハ税金或ハ鑛區問題外ナリ昨年九月ノ滿洲協約中モ王ノコトハ

キニアラズマ新カルコトハ最終ニ於テ議シテ可ナリ肝要ノ問題ノ定マラザルニ附帶ノ小

事ヲ議スルノ必要ナシ

彼曰ク 然ラハ後廻シト為シテモ苦シカラズ

我曰ク 中止スベキヤ

彼曰ク 暫ク中止スベシ

我曰ク 期間ヲ定メ置カン

彼曰ク 一週間可ナリニ週間ニテモ亦可ナリ

我曰ク 貴意ニ從ハン

彼曰ク 然ラハ一週間中止スルトセン其由總督ヨリ區事末ラハ會議ノ日ヲ區

知スルコトニスベシ

寫

第 17 門

はなはだのきつ

栗

撫烟兩炭坑細則ニ関スル第二十二回會議録

十一月二十二日兩國全委員出席

備考

是ヨリ先總領事ト交渉使トノ間ニ非公式ニ意見ヲ交換  
 シタリ交渉使ハ撫順炭坑ノ鑛區ヲ新屯河ヲ以テ境界ト  
 スルコトハ總督ノ素志ニテソレ以上讓歩スルコトハ總督ニ於  
 テ肯レセラズト申出テ總領事ハ之ニ對シテ打撃嚙子、  
 小瓢屯ヲ讓歩スル外日本政府ハソレ以上ノ要求ニ應スル  
 能ハスト答ヘ交渉使ハ然ラハ烟台炭坑ニテ大ナル讓歩ヲ肯  
 レセラルレハ或ハ之ヲ以テ總督ハ動カシ得ルヤモ知レズト陳  
 ヘ茲ニ本會議ヲ閉クイトナレリ

四十四年一月九日記録一部受

南滿洲鐵道株式會社

我(總領事)曰ク 本問題ニ関シテハ過日御來訪ノ節相互ノ打  
 明ケ話シテ申上ゲタルコトナルガ尚又阪口氏ニ相談セシニ其際我ヨ  
 リ申上ゲタルコト、本社ニ於ケル意見ト大差ナキコト故非公式ニ御  
 相談シテモ宜敷キコト、思ヘトモ折角阪口氏モ來奉セラレタルコト  
 故茲ニ公式ニ會議ヲ開クコト、為セリ既ニ再三御話申セシ如ク  
 我カ讓歩点及我主張ハ充分知悉セラルコトナレバ本日ハ唯其  
 結論ヲ申上ゲテ以テ速ニ本問題ヲ結了セルトス  
 先般我政府ノ讓歩スベキ点ノ内意ヲ申上ゲテ總督ノ同意ヲ  
 得ラル、様願ヒ置キレカ烟台ニテ讓歩セラル、ナラハ總督ヲ勸  
 メテ此問題ヲ結了レ得レトノコトニ付本日ハ些少ノ懸引モナシ真  
 ノ我カ最後ノコトヲ申上ル尚ホ又韓大入モ本日ハ餘程御多忙ノ

御様子故煙台及ヒ王承堯ノ付キテモ即決ヲ得ル様願ヒタレ  
換順ニ付テハ今茲ニ總論トシテ更ニ申上ル必要ナカレ即チ曩  
ノ日申上ゲタルニケ所ノ讓歩ノ外讓歩ノ餘地ナレ

煙台ニ付テハ我方ニ於テ尾明山ヲ拋棄スルヲ老席峯ノ趙ノ鑛  
區ニ對シテハ金五千田ヲ支給スルヲ

次ニ王承堯ニ付テハ此程十三四萬田ト云ヒレカ阪口氏ト相談ノ結  
果滿鉄カ十五萬田迄ヲ支出スル決心ト聞キレテ以テ之ヲ給與  
スルヲ右ヲ以テ問題全部ヲ解決シ度レト思フ是レ我カ結論  
ナリ

彼曰ク 撫順炭坑ニ付キテハ此レ以外致方ナキヤ今一應貴方ノ  
讓歩ノ愈々御決心ハ如何ニヤ新屯河ヲ以テ境トセラルカ或ハ



南滿洲鐵道株式會社

龍補坎ナルカ

我(總領事)曰ク 龍補坎ハ我ニ納メ決レテ之ヲ讓ルヲ出來  
サルナリ讓歩スヘキハ小瓢屯ト打鶯咀子ノ此レ以上ハ決レテ讓  
歩出來サルナリ

彼曰ク 撫順ニ就テハ先程御話シアリシトハ既ニ總督ニ申上  
ゲタレト御同意ナレ尙又煙台ニ於テニケ所ノ御讓歩アルト雖モ  
之レハ讓歩ト云バカラス尾明山ハ元來清國ノ所有ナリ之レニ對  
シテ貴方ヨリ讓歩云々ト解スバカサルヲナリ又老席峯ニ付  
テハ嘗テ價ヲ受ケテ權利ヲ讓リタルエトナレサハ南滿會社  
ハ之レニ付テハ買収スルカ或ハ趙ニ採炭セシムルカノ外途ナカレ右  
ノ通りナレ此ノニケ所ヲ拋棄セラルハ當然ノフニレテ讓歩ニアラ

サルナリ

我(總領事)曰ク 王承堯ノ件ハ如何

彼曰ク 王ノコトハ個人ノ權利利害ニ關スルコトナラバ會社ノ方ニテ十五萬圓ヲ支出セラルト云ハルモ之ハ我々ノ即答レ得サル所ナリ一應王ニ就キテ本人ノ意見ヲ聞キタル後申上ケレ

我(總領事)曰ク 王承堯ノ儀ニ付テハ既ニ業ニ御兼知アルハキ筈ナリ然ルニ未タ御兼知ナキニヤ

彼曰ク 王ハ近ゴ口病氣ニテ引籠レリ最モ既ニ快癒セリト聞クモ未タ工過ヲ過キサルハ故ニ未タ之ヲ確ルルノ機會ヲ得ス

彼レ王承堯ニ關スル給與金ニ付キテ北京ニ御聞キ合セアリ



南滿洲鐵道株式會社

タルカ

我(總領事)曰ク 之ハ北京公使ニ聞クノ必要ナキニ至レリ二十萬圓ト云フハ陶大均氏ヨリ申出テタル話ニシテ日本公使ニ於テ之ヲ諾シタル訳ニアラス種々ノ書類ヲ調査シタルモ公使ニ於テハ此ノ二十萬圓ト云フニ付キ發言セラレタルトナキハ明ナリ故ニ之ヲ向合サハレレ

彼曰ク 王承堯ノ件ニ付テハ我方ヨリ貴公使ニ申出デタルトモ未タ公使ヨリ返答ヲ得ス併シアル記録ニ據レハ二十萬圓ヨリ以上ニテハナキカト覺フ

我(總領事)曰ク 之レハ公使ヨリ御答ヘ申上ゲザル筈ナリ此ノ額ヲ定ムルハ後日ニ讓ルトトセシテ其終ニ打過キタルナリ



故ニ茲ニ會社ト相談ノ上十五萬圓ト定メタルナリ  
彼曰ク 王義堯ノ一付テハ更ニ本入ヲ呼出シテ彼レカ意  
見ヲ聞クコト、セレ

露國人ヨリノ要求ニ付テハ如何セラル、カ

我(德領事)曰ク 露國人ノ要求トハ何ナルヤ誰ニ向テ要求  
セレヤ或ハ嘗テ露國公使ヨリ貴國ニ向テ要求セシテ御移牒  
セラレレ、アリ之レヲ指シテ云ハル、カ

彼曰ク 然リ

我(德領事)曰ク 此ノ件ニ就テハ敢テ其要求ニ應スルノ必  
要ナレコレハ豫テ申上ゲタル如ク露國ノ鐵道經營ニ資スル為  
メノ炭坑經營ニシテ戰捷ノ結果我ニ收メタルモノナレハ即チ純



南滿洲鐵道株式會社

然タル日本政府ノ權利ニ歸シタルモノニシテ今更ラ之ヲ云々スルノ  
權利ナキコトナリ既ニ此ノコトハ東京ニテモ出テタルコトアリ露國大  
使ヨリ日本政府ニ申出テタル一ニテ其際我外務省ハ断然之ヲ  
排斥シタリ左レハ此ノコトハ其後復々諛國ヨリ申出ツル一ナクシテ  
決着シタルモノナリ

王義堯ノ一ニ就テモ日本政府ハ彼ノ權利ヲ認メタルニアラサレモ  
彼レカ立々場ヲ憐ミ所謂浚金ヲ與フルモノナリ其意ハ再三  
述ハタル所ナリ

斯クノ如キ事情故貴方ニ於テモ敢テ耳ヲ借サズレテ可ナリ

彼曰ク 祁氏モ申サル、カ如ク露國ノ為メニ我々ハ彼レノ利  
益ヲ説クノ要ナレ但夕露國ハ日本ニ請求セズレテ我レニ向テ

要求し來レリ依テ此ノコトヲ餘儀ナフ貴方ニ謀ルモノナリ然ルニ貴説ノ如クナレハ我ハ日本政府カ露國大使ニ答ヘラレタル書類ノ字ヲ得度レ之ヲ以テ我ハ彼レノ要求ニ應ヘレ

我(總領事)曰ク 之レハ書類ノ往復ニアラズレテ我外務大臣ト露國大使トノ口頭ヲ以テ為レタルナリ其意味ハ過般我ヨリ韓大人ニ差上ケタル書簡ニアリ之レヲ彼レニ示サルハ可ナラレ

彼曰ク 然ラハ貴意ニ從ヒテ貴書ヲ示ストスハレ  
我(總領事)曰ク 煙台ニ付テハ讓歩ニアラズト仰セラレ、モ我レハ即チ讓歩ナリト思フ其理由ハ先キニ申レタルカ如ク今テ又飛傑遠レテ求ブル要ナカラレ然ルニ貴方ハ單ニ讓歩ニ



南滿洲鐵道株式會社

アラストノミ云ハル、モ我ハ甚タ以テ其意ヲ解スルニ苦レハ貴方ニ於テ此處ヲ如何ニレ彼處ヲ如何ニセルト云フ御説明アラハ兼リタレ

彼曰ク 先刻貴下ハ本日結局ノ御話シタル様申サレタレ煙台ノ御話ヲ聞クニ及ヒ最後ノ讓歩ナリトハ受取り難レ少レモ讓歩アルヲ認メサルナリ

煙台炭坑ニ於ケル貴方ノ採炭計畫ハ大規模ノ計畫トハ申サレズ依テ煙台炭坑ハ全体ヲ我レニ讓與セラレテハ如何併レ之ハ議案トレテハ提議ニアラズト雖モ斯クセラレハ於テ或リ本問題ヲ解決スルニ便ナラレ

我(總領事)曰ク 如何ナル御考案アリテ御言ナルカ或ハ



買収せらるゝカ又ハ之レカ代償ヲ以テ換ヘントノ意カ

彼曰ク 煙台ニ於ケル全体ヲ譲ラレテ如何トモ云ヒレカ撫順ニ起因シテノナリ即チ撫順ノ最後ノ讓歩ハ貴方ハ龍補坎トセラレ我ハ新屯ヲ以テセルトス故ニ撫順ニ付キ既ニ最後ノ行詰リヲ煙台ニテ之レニ代ヘテ解決セントスルモノナリ

先日煙台ニ於テ讓歩スベケレトノ故煙台ノコトニ付キテ前陳ノ如キ讓歩ヲ望ムモノナリ

我(總領事)曰ク煙台全部ヲ讓歩セヨトハ之レポトワマス及北京條約ヲ動カスモノナリ即チ我カ獲得セル權利ヲ根本ヨリ覆スモノナリカハ大問題ハ我々ノ敢テ議スベキ範圍ニアラサルナリ此ノ邊ハ十分ニ御一考ヲ願ヒ度シ



南滿洲鐵道株式會社

彼曰ク 貴説ノ如ク全部ノ讓歩ハ或レ條約ニ違フ所アラハ我ニ於テハ之ヲ兼知セサルニアラズ然ラハ煙台ニ於ケル讓歩セラル程度ハ如何ニヤ

我(總領事)曰ク 其程度ハ即チ尾明山ヲ讓ルナリ老希峯モ亦タ金ヲ支給スルトセリ我レニ於テハコノニケ所ハ我カ權利ニ屬スルノ理由アルナリ然ルニ韓大人ハ讓歩ニアラズト屢々言ハルルモ我ニ於テハ其意ヲ得サルナリ又レ共別ニ御考察アルニヤ單ニ讓歩ニアラズ故ニ讓歩スルハ全体ヲ讓歩セヨトノ如キハ我々ノ答フル限ニアラサルナリ

彼曰ク 撫順ノ方ニ於テ總督ハ新屯ヨリ一步モ讓ラズト申サレバ貴説ノ主張ヲ重ネテ總督ニ申上グルト能ハサルナリ故ニ

6

煙台ノ方ニ於テ充分ノ御讓歩アレバ之ヲ以テ總督ノ心ヲ動カスヲ得レカト思フナリ併レ煙台ノ方ハ撫順問題ヲ解決スル為メノ方便ナリ故ニ貴方ニ於テモ我カ意ノアル所ヲ了解セラレテ煙台ニ於テ讓歩レ能フ丈ケテ明ラカニセラレタレ

我(總領事)曰ク 我レニハ此ノ懸引ナレ之レ以上ニ案ナレ故ニ貴方ニ於テ別ニ妙案アラハ兼リタレ

彼曰ク 貴方ノ煙台讓歩ノ實際限度如何ニヤ

我(總領事)曰ク 實際限度ハ先刺申上ゲタル通りナリコト外ニ實際ナレ

彼曰ク 先刺ノ通りナレバ總督ノ同意ヲ得ルコト出来難シ故ニコレ以上ノ御讓歩アラハ兼ラレ



南滿洲鐵道株式會社

我(總領事)曰ク 斯クノ如ク同一ノコトヲ繰リ返スハ恰モ判シ物ヲ解ク感アリ貴意ノ想像ハ頗ル困却スルナリ我ニ於テハ是迄種々ノ案ヲ提出シタリコレ以上ノ案ナレ

我レニ於テハ決シテ無理ハ云ヒ度ナレ故ニ公平ナル所ヲ以テ案トナレ来レリ既ニ随分長引キタル問題故懸ケ引キ所ナリ我希冀ハ始メヨリノ議事ヲ御熟覽ノ上總督ト御熟議アレハ又御案モ出テ然ルニ問題毎ニ頓挫ヲ来ストキハ談判ノ進行覺束ナク到底本議事ノ帰着スル時アラサルベシ此邊篤ト御一考ヲ願ヒタレ

彼曰ク 撫順ノ方ハ新化河迄ト定ムレハ煙台ノ方ヲ公平ニ確定スルコト難キニアラサルベシ然ルニ貴方ハ龍補坎迄ト主張セ

アルニ依リ煙台ニ控テ大ナル讓歩ヲセラレサルヤカラス兎ニ角撫順  
ヲ貴説ノ如クセハ煙台ニ控テ貴方ハ學ニ名義ヲ存スル為メ一ヶ所  
ノ鑛區ヲ納メテ他ノ總テヲ我レニ讓リテ可ナラスヤ然レバ或ハ總督ノ  
意ヲ動カストテ得ルヤモ知レズ

我(總領事)曰ク 我ハ名義ヲ爭フニアラス既得ノ權利ニ就キテ  
言フモノナリ斯ク大ナル問題ヲ以テ提議セラルハ我カ日本ノ權利ヲ  
破壞セラルモノナリ此クテ御相談ニ衆ルテ能ハサルナリ

彼曰ク 我意志ハ前ニ速ニハタル如シ併レ今茲ニ相互ノ意見ヲ  
交換セラハ如何ト云フニ在リ

我(總領事)曰ク 斯ク大差アルハ相談出来ザルナリ貴方ニ控テ  
多少ノ讓歩ヲスバケレバ我方ニ控テモ斯クセラレ度シトノ相談ナレバ



南滿洲鐵道株式會社

兎モ角唯今ノ如キ非常ノ差アル問題ヲ以テセラレバ永ク相談ノ  
纏ルノトキナレ

彼曰ク 全体モ四ヶ所モ讓歩出来ズトナラバ何ヶ處ヲ以テ應  
セラルヤ

我(總領事)曰ク 即ケ尾明山ヲ讓歩シ老帝峯ニ付キテ多  
少ノ金ヲ支給セント云フナリ

彼曰ク 貴主張ノ如クレバ愈々相談ハ纏ラズレテ遷延セラレ抑モ  
本問題ヲ開始シスルトモ暑中扇ヲ用ヒタリ然ルニ今テヤ巖冬  
大ヲ用フルニ至レリ復タ扇ヲ用フルノ時ニ至ルモ決定セサルヤレ

我(總領事)曰ク 實行ノ出来サル説ハ無益ナラシ決定レ得ル  
コトニ決シテ如何

彼曰ク 此儘放任スルニハアラス煙台ニ於テ多少ノ讓歩セシ依リテ貴方ニ於テ尾明山老席峯ノ外更ニ斟酌セラレテ如何ニヤ

我(總領事)曰ク 是迄ノ議事ヲ總督ニ上申セラルレバ總督ニ於テモ夫レ程六ヶ敷ハ申サレマシ御熟議アリ度シ

彼曰ク 撫順ノ方ヲ新屯川ニテ宜シト云ハルレバ煙台ノ方ハ其儘纏マルベキカ其結果ヲモ或ハ保証レ得レカ併シ龍補坎迄トテ我々ハ總督ニ申上ケルヲ能ハサルナリ總督ハ此境界ヲ非常ニ重視セラレ居レハナリ

我(總領事)曰ク 撫順ノ方ハ日本政府ノ決心ハ曩ニ申シタル以上決シテ動かカス能ハス即チ少瓢屯、打營咀子ノ外ハ一步タリトモ讓歩出来サルナリ又王兼堯ニ對シテモ之レ亦意外ノ金ヲ給付スル



南滿洲鐵道株式會社

トトセリ此ノ如クレバ我カ讓歩ハ益々多キヲ加フルナリ之レ以上ハ貴方ニ於テ煙台ニ於ケル我カ讓歩以外ニ多少讓歩レ得ル点ニ付案アラハ兼ルベシ

尤モ煙台ノ問題タルヤ其権利等分明ニシテ讓歩スヘキ餘地ナキヲ如何セシ然ルニ我レハニヶ所ノ讓歩ヲ敢テレタリ尚是以上ヲ望マルハ案アルニヤ

彼曰ク 貴説ノ讓歩ト云ハルレバ尾明山ハ明カニ清國ノ所有ナリ又老席峯ハ未タ何レモ決セサルモノニシテ貴方ヨリ讓ルトカ拋棄スルトカ云ハルベキ譯ノモノニアラザル也讓歩トハ判然タル權利アルベキ地点ヲ讓歩セラルガ即チ讓歩ナラズヤ

我(總領事)曰ク 貴説ノ如クレバ例令ハ撫順ニ於テ讓歩スト

云ハ撫順炭坑全体ヲ讓步セサルハ讓步トハ認めラザルニキ嘗テ款  
 原總領事在任ノ際撫順炭坑ノ轍回ヲ貴官衙より迫ラレタルヲア  
 リ此ノ如キ主意ニテ全部ノ讓步ニアラサレバ讓步ト謂ハサルカ  
 煙台ニ於ケル尾明山老席峯ニ就テ我ノ權利ニ属スルト云フ  
 ニ付テハ我カ主張スヘキ充分ノ理由アレハナリ之ヲ以テ貴方ニ割キ  
 テ讓ルニ何レフ讓步ニアラズトセシヤ

彼曰ク コレ或ハ一面ノ説ナラシ免ニ角煙台ノ方ハ貴方ノ主張ヲ  
 放棄セラルガ讓步トハ謂ヒ難シ貴方ノ權利決定四ヶ所アリ  
 其何レヲ讓ラルカヲ兼知シ度シ

我(總領事)曰ク 我レニハ二案ナレ貴方ニ案アラズヤ

彼曰ク 我カ方ニハ新地迫ヲ讓ラルニ付テハ外考案ナレ同



南滿洲鐵道株式會社

シク二案ナレ然ルニ龍補坎迫ノ貴説アリレ故然ラバトテ煙台ノゴト  
 ヲ申出テタリ

我(總領事)曰ク 然ラバ本日我方より申上タル煙台ノ讓步  
 王兼堯ニ對スル讓步アリタレハ貴方ニ應セラレストノヲ我政  
 府ニ申遣シテ可ナルヤ

彼曰ク 王兼堯ノ一ハ應本人ニ付テ之ヲ訂シタル上答ヘレ別ニ  
 我々ニ於テ異議ヲ陳スベキ理由ナレ新地ヲ讓ルトニ就テ尾明山  
 老席峯ヲ以テ代ヘレトノ一ハ總督ニ申上グルト出来サルナリ

我(總領事)曰ク 然ラハ我ハ問題解決ノ為メ煙台ニ於テ之レ  
 コレヲ讓步為レタレハ應セラレズトノヲ我カ政府ニ報告セシ然ル  
 中ハ又々議事ヲ中絶スルトナルナリ

彼曰ク 本問題ニ付テ其解決ノ速カナラレテ欲スレモ我カ要  
求ヲ容レラレザルハ議事ノ中絶スルハ石ヲ遺憾トモ思フトモ致方ナレ  
我(總領事)曰ク 念ノ為メ申シ置クカ本日本我カ意見トレ  
テ陳ハタルト即チ王秉堯ニ對スル給付金煙台炭坑ニ於ケル議  
歩リ本問題全般ニ就キテノ意見コレテ之レ決シテ個々別々ニ付  
キテ申シタルコトニアラス全般ノ事ヲ決定スレハ即チ本日本議事  
モ亦決定スル訣ナリ全体ニ於テ貴方ニ於テ容レラズレテ右ニ  
ケノ一丈ケテ議シタル訣ニアラザルトハ能ク了知セラレタレ  
彼曰ク 貴説充分ニ了解セリ祁道臺モ列席ノ上ノ一ナレハ  
確カニ了知セリ



南滿洲鐵道株式會社

王秉堯ニハ十五萬圓以上與ハラズヤ、煙台ハニヶ所以上ノ議  
歩出来ザルニヤ、撫順ハ龍補坎以上ノ議歩出来サルニヤ、右以上ハ  
絶對ニ議歩出来サルヤ今一應念ノ為メ兼リ置カレ

我(總領事)曰ク 然リ我ニハ此ノ外ニ議歩ナレ懸引ナレ我  
ニ於テハ政府并ニ滿鉄會社ノ意ノアル處ヲ腹藏ナク申上ケ  
タリ此儀ヲ總督ニ報告アリ度シ

彼曰ク 王秉堯ノ件並ニ尾明山老帝峯ノ件ハ愈々最  
後ノ御説ナルヤ

我(總領事)曰ク 然リ  
彼曰ク 然ラハ其旨總督ニ上申スヘシ總督ニ於テ又何  
カ意見モアリラン

又曰ク 我々モ圓滿ニ速ニ解決ヲ欲スレモ此儀行萬

致方ナレ

我(總領事)曰ク 何卒最初ヨリノ議事録ヲ御熟覽アリ度レ  
左スレハ我カ是迄議事ヲ為レタル程度モ分明セレ

我ハ今日ノ議事ニ就キ政府ニ報告スベレ

彼曰ク 我々モ一應總督ニ報告シテ或ル時機ニ更ニ會議  
スルコト、スベレ

備考

清國委員ハ烟台全部ヲ讓レト云フ外具体的要求  
ヲ為スナク日本委員ノ真意ヲ疑ヒ尚ホ底ノ底ア  
リト揣摩シ之ヲ探ラント欲シテ反覆押問答ヲ試  
ミタリ



南滿洲鐵道株式會社

1-1811

0383



明治 年 月 日  
同 年 月 日  
自起算  
日發遣

立 方 依 法 決 定

小 地 法 修 訂

小 村 久 也

電 送 第 二 三 六 六 號 附  
明 治 三 十 九 年 九 月 二 日 發 遣

才 九 五 号

才 一 四 四 号

四 十 三 年 十 二 月 廿 二 日 記 録 一 部 受

外 務 省

勘 察 ヲ リ 合 議 録 ヲ 取 寄 セ 委 細  
合 議 ノ 経 過 ヲ 取 調 一 列 ル ニ 松 原  
礦 区 ニ 付 双 方 ノ 意 見 一 致 セ 甘 ル ハ  
古 埴 子 河 以 西 ノ 地 域 ト 松 原 縣  
界 外 ニ 立 ル 三 礦 区 ニ 係 ル 次 才  
ニ テ 交 讓 妥 結 ノ 跡 地 ナ キ ニ ア ラ 甘  
ル ヤ ノ 事 ア リ 就 テ ハ 貴 友 ニ 於 テ  
ハ プ ロ マ イ ズ ル ノ 方 法 ニ 付 意 見 ヲ

付 録 簿 山

立ララレ 参考、方、電、按、お  
成ル 標、改、レ、タ、ク、ち、右、ノ、意、見、ハ  
事、分、考、ニ、之、リ、秘、密、ニ、ナ、レ、望、カ、レ  
權、改、シ、タ、シ

外務省

0386

1-1811

小池總領事

大臣  
次官

要復寫

通商

人事

會計

取調

報告

條約

第一六六號

奉天茂九月三十日午後五時  
東京者九月三十日午後五時

小池總領事

貴電身九五號ニ関シ本官ハ既ニ種々ノ方法ヲ  
案出シ双方ノ主張餘リニ鞏固ニシテ妥結ノ餘  
地ヲ見出シ得サリシ處其後内々清國側ノ意向  
ヲ探リタルニ東ハ新屯近ハ讓歩スヘキ内意ア  
ルト同時ニ若シ相當ノ纏マシル金額ヲ總督ハ  
納付スルニ於テハ或ハ其ノ上ノ讓歩ヲ求メ得  
ラハヘキカトモ思考セラレハ模稜ナキニアラ

十三年十二月廿一日記錄一部受

ス元來本問題ニ付テハ双方共証據薄弱ナルニ  
付理屈ノ争ヒシ為ニ居ル以上ハ水掛論ニ終ハ  
ルヘキニ付本官ノ最終ノ會議ニ於テ一己ノ意  
見トシテ總督ニ於テ鑛區ノ全體ヲ承認スル以  
上ハ滿鉄リシテ烟台ニ於テ十分ノ讓歩ヲ為サ  
シタルノ外清國官憲ヨリ採掘ヲ許可セラレ居  
ル四ヶ所ノ鑛區ヲ買収(脱カ)様滿鉄ニ勸告スヘ  
シトノ意味ニテ提議シタルニ其後總督北京ヨ  
リ帰任後詮議ノ結果若シテ總督ニハ同意ニ難キ  
旨回答アリタルカ其ノシガタキ理由ヲ察スル

二右ハ主義、於テ全然滿鉄ノ主張ヲ認ムルコ  
 トトナルト及關係個人ニハ利益アルモ總督側  
 於テ金錢上得ル所ナキト爲ナルヘシ依テ  
 此際滿鉄ニ於テ數トモ十萬内外ノ納付金ヲ  
 爲シ將來ノ大規模又ハ第三國人ノ採掘ヲ許サ  
 ストノ條件ヲ附シ詭補坎及大營阻子ヲ断念ス  
 ルコトトセハ清國ニ於テハ小瓢氏及新(モカ)  
 ヲ譲リ以テ安結スルニトシ得ヘキカト思考ス  
 尚右本官ノ意見御奏酌ノ上滿鉄、御交海相成  
 ヲル場合ニハ滿鉄ノ回答振本官ノ考考込御電

報アリタシ

極秘

三二五暗

奉天書九月五日  
其書九月五日  
一〇二〇



少村外務省

少池佐助事

第一六六號

才書才九五号ニ奉<sup>レ</sup>本<sup>レ</sup>書<sup>レ</sup>既ニ行<sup>レ</sup>々ノ方法ヲ  
 業<sup>レ</sup>出<sup>レ</sup>シ双方ノ主権<sup>レ</sup>終<sup>レ</sup>リニ華國ニシテ各條ノ條  
 地<sup>レ</sup>ノ見<sup>レ</sup>出<sup>レ</sup>シ得<sup>レ</sup>ナリシ事<sup>レ</sup>其<sup>レ</sup>後<sup>レ</sup>内<sup>レ</sup>法<sup>レ</sup>國<sup>レ</sup>例<sup>レ</sup>ノ意向  
 ヲ探<sup>レ</sup>リタルニ東<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>北<sup>レ</sup>東<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>據<sup>レ</sup>ル<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>キ<sup>レ</sup>内<sup>レ</sup>意<sup>レ</sup>ア  
 ルト因<sup>レ</sup>防<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>及<sup>レ</sup>シ<sup>レ</sup>お<sup>レ</sup>當<sup>レ</sup>ノ<sup>レ</sup>據<sup>レ</sup>マ<sup>レ</sup>シ<sup>レ</sup>ル<sup>レ</sup>金<sup>レ</sup>銀<sup>レ</sup>ヲ<sup>レ</sup>依<sup>レ</sup>據<sup>レ</sup>ス  
 納<sup>レ</sup>付<sup>レ</sup>ス<sup>レ</sup>ル<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>於<sup>レ</sup>テ<sup>レ</sup>武<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>其<sup>レ</sup>ノ<sup>レ</sup>上<sup>レ</sup>據<sup>レ</sup>ル<sup>レ</sup>ヲ<sup>レ</sup>求<sup>レ</sup>ム  
 ナル<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>キ<sup>レ</sup>カ<sup>レ</sup>ト<sup>レ</sup>モ<sup>レ</sup>思<sup>レ</sup>考<sup>レ</sup>セ<sup>レ</sup>ラ<sup>レ</sup>ル<sup>レ</sup>據<sup>レ</sup>據<sup>レ</sup>ナ<sup>レ</sup>キ<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>テ<sup>レ</sup>ラ<sup>レ</sup>

外務省

復寫

ス<sup>レ</sup>元<sup>レ</sup>未<sup>レ</sup>知<sup>レ</sup>向<sup>レ</sup>款<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>付<sup>レ</sup>テ<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>双方<sup>レ</sup>其<sup>レ</sup>法<sup>レ</sup>條<sup>レ</sup>條<sup>レ</sup>弱<sup>レ</sup>ナル<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>モ  
 付<sup>レ</sup>理<sup>レ</sup>庄<sup>レ</sup>ノ<sup>レ</sup>年<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>テ<sup>レ</sup>居<sup>レ</sup>ル<sup>レ</sup>以上<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>掛<sup>レ</sup>給<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>終<sup>レ</sup>ハ  
 ル<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>キ<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>付<sup>レ</sup>本<sup>レ</sup>書<sup>レ</sup>ノ<sup>レ</sup>最終<sup>レ</sup>ノ<sup>レ</sup>合<sup>レ</sup>議<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>於<sup>レ</sup>テ<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>已<sup>レ</sup>ノ<sup>レ</sup>意  
 見<sup>レ</sup>ト<sup>レ</sup>シ<sup>レ</sup>テ<sup>レ</sup>依<sup>レ</sup>據<sup>レ</sup>ス<sup>レ</sup>於<sup>レ</sup>テ<sup>レ</sup>據<sup>レ</sup>ス<sup>レ</sup>ノ<sup>レ</sup>全體<sup>レ</sup>ヲ<sup>レ</sup>認<sup>レ</sup>ム<sup>レ</sup>ル<sup>レ</sup>以  
 上<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>滿<sup>レ</sup>洲<sup>レ</sup>ヲ<sup>レ</sup>シ<sup>レ</sup>テ<sup>レ</sup>烟<sup>レ</sup>台<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>於<sup>レ</sup>テ<sup>レ</sup>十分<sup>レ</sup>ノ<sup>レ</sup>據<sup>レ</sup>ル<sup>レ</sup>ヲ<sup>レ</sup>居<sup>レ</sup>ル  
 シ<sup>レ</sup>ト<sup>レ</sup>ル<sup>レ</sup>ノ<sup>レ</sup>外<sup>レ</sup>法<sup>レ</sup>國<sup>レ</sup>官<sup>レ</sup>憲<sup>レ</sup>ヲ<sup>レ</sup>據<sup>レ</sup>據<sup>レ</sup>ス<sup>レ</sup>河<sup>レ</sup>ノ<sup>レ</sup>セ<sup>レ</sup>ラ<sup>レ</sup>レ<sup>レ</sup>居  
 ル<sup>レ</sup>以<sup>レ</sup>テ<sup>レ</sup>各<sup>レ</sup>派<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>テ<sup>レ</sup>置<sup>レ</sup>收<sup>レ</sup>ス<sup>レ</sup>（<sup>一</sup>語<sup>カ</sup>）<sup>レ</sup>標<sup>レ</sup>滿<sup>レ</sup>洲<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>勸<sup>レ</sup>告<sup>レ</sup>ス<sup>レ</sup>ハ  
 レ<sup>レ</sup>ト<sup>レ</sup>ノ<sup>レ</sup>意<sup>レ</sup>見<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>提<sup>レ</sup>議<sup>レ</sup>シ<sup>レ</sup>タ<sup>レ</sup>ル<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>其<sup>レ</sup>後<sup>レ</sup>依<sup>レ</sup>據<sup>レ</sup>業<sup>レ</sup>業<sup>レ</sup>ヨ  
 リ<sup>レ</sup>法<sup>レ</sup>條<sup>レ</sup>條<sup>レ</sup>條<sup>レ</sup>ノ<sup>レ</sup>法<sup>レ</sup>條<sup>レ</sup>大<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>提<sup>レ</sup>議<sup>レ</sup>シ<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>因<sup>レ</sup>意<sup>レ</sup>シ<sup>レ</sup>飛<sup>レ</sup>キ  
 吉<sup>レ</sup>田<sup>レ</sup>各<sup>レ</sup>アリ<sup>レ</sup>タル<sup>レ</sup>カ<sup>レ</sup>其<sup>レ</sup>ノ<sup>レ</sup>シ<sup>レ</sup>ガ<sup>レ</sup>タ<sup>レ</sup>キ<sup>レ</sup>留<sup>レ</sup>留<sup>レ</sup>ヲ<sup>レ</sup>察<sup>レ</sup>ス<sup>レ</sup>ル<sup>レ</sup>

右ハ正義ニ於テ金満漢ノ主張ヲ認ムルニ  
 トトナルト及國係個人ニハ利益アリモ條約例  
 ニ於テ金満上場ル所ナキトノ為ナルヘシ依テ  
 中法滿漢ニ於テ紛ヲトモ十数内外ノ物件金ヲ  
 為シ物業ノ大規模又ハ才ニ國人ノ操縦ヲ許サ  
 ストノ案件ヲ解シ就補坎及大高坦子ヲ封念ス  
 ルコトトセハ法也ニ於テハ小瓢化及新(此カ方  
一語取カ)  
 又譲リ以テ安堵スルコトヲ得ヘキカト思考ス  
 者大抵直ノ意見ハ参考ノ上滿漢ニ由テ海軍  
 タル場合ニハ滿漢ノ國係振起直ノ参考トス電  
 非アリタシ

外務省